

No.	図番	図面名称	No.	図番	図面名称	No.	図番	図面名称	No.	図番	図面名称
1	S- 00	図面リスト	51	S-201- 4	雑詳細図2-4						
2	S- 01- 1	建築工事特記仕様書（構造）-1	52	S-201- 5	雑詳細図2-5						
3	S- 01- 2	建築工事特記仕様書（構造）-2	53	S-201- 6	雑詳細図2-6						
4	S- 02- 1	配筋規準図-1	54	S-300- 1	下弦材 フレーム伏図						
5	S- 02- 2	配筋規準図-2	55	S-300- 2	上弦材 フレーム伏図						
6	S- 02- 3	配筋規準図-3	56	S-300- 3	屋根受け材伏図						
7	S- 02- 4	配筋規準図-4	57	S-300- 4	軸組図 (1)						
8	S- 02- 5	配筋規準図-5	58	S-300- 5	軸組図 (2)						
9	S- 03- 1	溶接規準図・仕口規準図	59	S-300- 6	鉄骨部材リスト						
10	S- 04- 1	鉄骨標準詳細図-1	60	S-300- 7	鉄骨詳細図						
11	S- 04- 2	鉄骨標準詳細図-2	61	S-300- 8	キャットウォーク（床面）部材配置及び取合い位置図						
12	S- 05- 1	梁貫通補強要領図	62	S-300- 9	キャットウォーク部材（上弦材レベル）梁伏図						
13	S- 05- 2	RC梁貫通孔補強材 設計・施工標準仕様書	63	S-301- 1	屋外トイレ棟						
14	S- 05- 3	梁貫通の補強リスト	64	S-301- 2	駐輪場 伏図・軸組図						
15	S- 06- 1	躯体内埋め込みボックス類及び配管に関する施工規準図	65	S-301- 3	駐輪場 部材リスト						
16	S- 17- 1	フラットデッキ標準図									
17	S- 30- 1	土質柱状図 (1)									
18	S- 30- 2	土質柱状図 (2)									
19	S- 30- 3	土質柱状図 (3)									
20	S- 30- 4	地層断面想定図-1									
21	S- 30- 5	地層断面想定図-2									
22	S- 31- 1	杭伏図									
23	S- 31- 2	基礎ピット伏図									
24	S- 31- 3	1階床伏図									
25	S- 31- 4	2階床伏図									
26	S- 31- 5	2FL+4800床伏図									
27	S- 32- 1	軸組図 (1)									
28	S- 32- 2	軸組図 (2)									
29	S- 32- 3	軸組図 (3)									
30	S- 32- 4	軸組図 (4)									
31	S- 32- 5	軸組図 (5)									
32	S- 32- 6	軸組図 (6)									
33	S- 32- 7	軸組図 (7)									
34	S- 32- 8	軸組図 (8)									
35	S- 32- 9	軸組図 (9)									
36	S- 32-10	軸組図 (10)									
37	S- 32-11	軸組図 (11)									
38	S- 33- 1	杭・フーチングリスト									
39	S- 34- 1	基礎梁リスト (1)									
40	S- 34- 2	基礎梁リスト (2)・基礎小梁リスト									
41	S- 35- 1	柱芯線図									
42	S- 36- 1	RC柱リスト									
43	S- 37- 1	RC大梁リスト									
44	S- 38- 1	RC小梁・壁・スラブリスト									
45	S- 38- 2	鉄骨部材リスト									
46	S-200- 1	雑詳細図1-1									
47	S-200- 2	雑詳細図1-2									
48	S-201- 1	雑詳細図2-1									
49	S-201- 2	雑詳細図2-2									
50	S-201- 3	雑詳細図2-3									

建築工事特記仕様書（構造）

00. 特記仕様書（共通・各工事）における各章の取扱い及び適用項目の取扱い
a. 各章は章名の右側に「本章は本工事に適用せず」と明記していない限り適用する。
b. 各節は節名の右側に「本章は本工事に適用せず」と明記していない限り適用する。
c. 節中の番号「01.」は番号の左側に×印が明記されていない限り適用する。
d. 番号「01.」中は※印及び◎印の付いた項目を適用し、×印は適用しない。
e. a, b, c, ｲ)／＼印は事項を表し、事項中の項目は※印又は◎印の付いた項目（両方に印のある場合は◎を優先とする。）を適用し、ｻ)×印又はｻ)／＼印は適用しない。事項の左側に×印が記された事項は適用しない。
f. 各節及び番号に記載の（ ）内の表示番号は各工事標準仕様書の項目、表、図を示す。
g. 品質性能上、製造所名を記入する場合は「株式会社」等の記載は省略する。（ ）内は製品名を示す。
h. 特記仕様書中に示す数字の単位は数字の後に特記がない限り「mm(ミリ)」とする。

0章: 共通特記事項 ※下記に示す以外の事項は共通特記仕様書による。

1章: 各章共通事項 ※下記に示す以外の事項は共通特記仕様書による。

01. 特記仕様書各章の取扱い及び適用項目の取扱いは共通特記仕様書に示す。

2章: 仮設工事「建築工事特記仕様書（意匠）」による

3章: 土工

2節: 根切り等

01. 根切り(3. 2. 1)
a. 根切りは工事現場内外に有害な影響を与えないよう、かつ、土砂が崩壊しないよう関係法令等に従い、下記の工法を参考にし、受注者の責任で適切な法面又は山留めを設け、必要に応じて計測を行う。
1) 山留め壁
2) 保工

02. 排水(3. 2. 2)
a. 排水により工事現場内外、根切り底、法面などに有害な影響を与えないよう下記の工法を参考にし、受注者の責任で、適切な排水を行う。
1) 排水工法

03. 埋戻し及び盛土(3. 2. 3)
a. 埋戻しの種類
※ A種 山砂の類
※ B種 根切り土の中の良質土
※ C種 他現場の建設発生土の中の良質土
※ D種 再生コンクリート砂
b. 盛土の種類
※ A種 山砂の類
※ B種 根切り土の中の良質土
※ C種 他現場の建設発生土の中の良質土
※ D種 再生コンクリート砂

4章: 地業工事

2節: 試験及び報告書

01. 杭の精度
水平方向の偏心は100mm以下(特記がある場合は特記の値以下)とし、これを超えた場合、受注者は安全及び強度が確保できる処置の検討を行い、監理者の指示を受ける。

02. 杭の載荷試験(4. 2. 3)
a. 杭の載荷試験
1) 試験方法
2) 試験位置
3) 本数
4) 載荷荷重
b. 報告書の記載事項は「建築工事監理指針(4. 2. 5)」による。

03. 地盤の載荷試験(4. 2. 4)
a. 地盤の載荷試験
1) 試験方法
2) 試験位置
3) 箇所数
4) 試験深さ
5) 載荷荷重
6) 荷重制御
b. 報告書の記載事項は「建築工事監理指針(4. 2. 5)」による。

3節: 既製コンクリート杭地業 「本節は本工事に適用せず」

04. 材料(4. 3. 3)
a. 材料はJIS規格品及び国土交通省告示1113号に定める品質を確保するものとし、規格証明書を監理者に提出して、承認を受ける。
b. 杭の仕様
c. 継手の箇所数

05. セメントミルク工法(4. 3. 4)
a. 専門工事業者が工事に相応した技術を有していることを証明する資料を監理者に提出すること。
b. 支持層の位置及び土質
c. 試験杭
1) 試験杭
2) 掘削試験
3) 透水試験(掘削孔内の水位観測)
d. 本杭
1) 掘削深さ
2) 杭の支持層への掘入れ長さ
e. 杭の水平方向の位置ずれの精度
f. 根固め液及び杭周固定液の管理試験
1) 試験杭
2) 本杭: 継手のない場合
3) 本杭: 継手のある場合
g. 統合的な管理システム

06. 特定埋込杭工法(4. 3. 5)
a. 工法名
b. 支持地盤の位置及び土質
c. 試験杭
1) 試験杭
2) 掘削試験
3) 透水試験(掘削孔内の水位観測)
d. 杭の水平方向の位置ずれの精度
e. 統合的な管理システム
f. 根固め部の未固結試料の採取(認定条件とされている工法の場合は、本項の関わりを実施する。)
1) 試料採取
2) 本杭施工

07. 継手(4. 3. 6)
a. 継手の工法
b. アーク溶接継手部の検査

08. 杭頭の処理等(4. 3. 8)
a. 杭頭処理方法

4節. 鋼杭地業
「本節は本工事に適用せず」

09. 材料(4. 4. 3)
a. 鋼杭の材料
10. 工法(4. 4. 4)
a. 工法名
b. 支持層の位置及び土質
c. 試験杭
1) 試験杭
2) 掘削試験
3) 透水試験(掘削孔内の水位観測)
d. 杭の水平方向の位置ずれの精度
e. 統合的な管理システム

11. 継手(4. 4. 5)
a. 継手の工法
b. アーク溶接継手部の検査

12. 杭頭の処理等(4. 4. 6)
a. 杭頭処理方法

5節: 場所打ちコンクリート杭地業
13. 一般事項(4. 5. 1)
a. 工法
14. 材料その他(4. 5. 4)
a. 鉄筋
1) 帯筋の加工及び組立
2) 鉄筋の最小かぶり厚さ
3) 鉄筋かごの補強
4) 組み立てた鉄筋の節ごとの継手
b. コンクリート
1) セメントの種類
2) 設計基準強度
3) コンクリートの種類
4) スラブラ
5) 構造体強度補正值(S)
c. 鋼管
1) 鋼管部分の材料

15. アースリール工法、リバース工法及びオールケーシング工法(4. 5. 5)、場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び掘込杭工法(4. 5. 6)
a. 工法
b. 支持層の位置及び土質
c. 試験杭
d. 本杭
1) 杭の支持層への掘入れ長さ
2) 杭の水平方向の位置ずれの精度
3) 孔内超音波測定

6節: 砂利、砂、捨コンクリート地業等
16. 砂利及び砂地業(4. 6. 3)
a. 範囲及び厚さ
17. 捨コンクリート地業(4. 6. 4)
a. 範囲及び厚さ

18. 床下防湿層(4. 6. 5)
a. 範囲
b. 材料
c. 位置
19. ラップルコンクリート地業
a. 範囲及び深さ
b. 支持層
c. 型枠
20. 地盤改良
a. 工法
b. 改良範囲
c. 品質管理(計測、試験等含む)
d. 固化材
e. 六価クロム溶出試験

5章: 鉄筋工事

2節: 材料

01. 鉄筋(5. 2. 1)
a. 鉄筋の種類
b. 材料はJIS規格品及び建築基準法第374条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋とし、規格証明書を監理者に提出し、承認を受ける。
c. 認定品
1) 名称
2) 認定番号
02. 溶接金網(5. 2. 2)
a. 種類
1) 線径 6φ
2) 線径 3. 2φ
3) 線径 D10
b. 溶接金網はJIS G 3551の規格品とする。
c. 鉄筋格子は材質JIS G 3112 SD295の規格品とする。

3節: 加工及び組立

03. 継手及び定着(5. 3. 4)
a. 継手工法及び適用箇所
b. 鉄筋の継手位置
c. 柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ
d. 耐力壁の鉄筋の重ね継手長さ
e. 隅り合つ継ぎ手の位置
f. 鉄筋の定着の長さ
g. 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さ
h. 機械式鉄筋定着工法
1) 工法名
2) 定着金物タイプ
3) 定着施工者
4) 定着部の検査
イ) 自主検査
ロ) 第三者検査

04. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(5. 3. 5)
a. 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ
b. 耐久性上不利な箇所などの鉄筋のかぶり厚さ
1) 適用箇所
2) かぶり厚さ
c. コンクリート打増し部はかぶり厚さに算入しない。

05. 各部配筋(5. 3. 7)
a. 各部の配筋

4節: ガス圧接

06. 圧接完了後の圧接部の試験(5. 4. 10)
a. 継手部の検査
1) 自主検査
2) 第三者検査
3) 試験片を採取した部分の処置(引張試験を採用した場合に適用)
4) 検査会社
5節: 機械式継手
「本節は本工事に適用せず」

07. 機械式継手(5. 5. 1～5. 5. 5)
機械式継手は建設省告示第1463号(H12.5.31)に適合するものとする。また、継手等級はA級とする。
a. 継手の工法
b. 継手施工者
c. 使用箇所
d. 鉄筋相互のあき
e. 施工前試験
f. 継手部の検査
1) 自主検査
2) 第三者検査
3) 試験片を採取した部分の処置(引張試験を採用した場合に適用)
4) 検査会社

08. 溶接継手: 突合せ溶接(5. 6. 1～5. 6. 5)
溶接継手は建設省告示第1463号(H12.5.31)に適合するものとする。また、継手等級はA級とする。
a. 継手工法
b. 継手施工者
c. 使用箇所
d. 鉄筋相互のあき
e. 溶接技能者
f. 施工前試験

g. 継手部の検査
1) 自主検査
2) 第三者検査
h. 試験方法
i. 不合格となった継手部への措置等
j. 検査会社

09. 溶接継手: 重ねアーク溶接: D16以下の縦接鉄筋に適用する。(5. 6. 3)
溶接継手は建設省告示第1463号(H12.5.31)に適合するものとする。
a. 溶接技能者
b. 溶接施工
c. 継手部の検査(自主検査)

6章: コンクリート工事

2節: コンクリートの種類及び品質

01. コンクリートの種類(6. 2. 1)
a. コンクリートの種類
b. コンクリートの気乾単位容積質量による種類
02. コンクリートの強度(6. 2. 2)、気乾単位容積質量(6. 2. 3)、ワーカビリティ及びスランプ(6. 2. 4)
a. コンクリートの強度
b. 気乾単位容積質量
c. ワーカビリティ及びスランプ
03. 構造体コンクリートの仕上り(6. 2. 5)
a. 部材の位置及び断面寸法の許容差
b. コンクリートの打放し仕上りの種類
c. コンクリートの仕上りの平たんさの種類

3節: コンクリートの材料及び調合


04. コンクリートの材料(6. 3. 1)
a. セメント
1) 種類
2) 適用箇所
b. 骨材
1) 骨材の種類
2) 骨材のアルカリ反応性による区分
c. 水
d. 混和材料

05. コンクリートの調合(6. 3. 2)
a. 構造体強度補正值(C)
b. 混和材料の使用方法及び使用量
c. 試し練り
d. 監理者の立会い

5節: コンクリートの品質管理
06. コンクリートの品質管理(6. 5. 1～6. 5. 5)
a. 設計基準強度と適用箇所
b. 水セメント比
c. 単位水量
d. 単位セメント量
e. 混和材料
6節: コンクリートの工事現場内運搬、打込み及び締固め

07. 打継ぎ(6. 6. 4)
a. 打継ぎ位置
b. 目地の寸法

8節: 型枠
08. 型枠一般(6. 8. 1)
a. 躯体の増打ち厚さ
b. ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法
c. テッキプレートを支える梁側面部の増打ち厚さ
09. 材料(6. 8. 2)
a. せき板の材料
b. 床型枠用鋼製デッキプレート
c. ラス型枠
d. 縦平板型枠
e. 円柱型枠
f. 断熱材兼用型枠材
g. MCF工法用シート

 石本建築事務所 ISHIMOTO architectural & engineering firm, inc.	履歴	完成図作成（受注者名）	完成図承認	法適合確認 構造設計一級建築士 山田 和生 証交付番号 第 11279号	法適合確認 設備設計一級建築士 証交付番号 第 11279号 本図(仕様書)に記載された事項は、設備関係規定に適合することを確認した。	製作日	代表設計者	設計者	業務名称	業務契約コード	図面番号	管理建築士
		日付	日付			2025.03.31	大臣登録第280701号 西 重隆	大臣登録第370830号 山田 和生	(仮称) 福智町総合体育館新築工事	108557-02	S-01-1	一級建築士 大臣登録第280701号 西重隆
		担当者	担当者			ファイル名	日付	担当者	図面名称	編尺		

- h. スリーブ(配管用等)の材料
- 柱及び梁以外の箇所で開口補強が不要であり、かつ、スリーブ径が200mm以下の部分
  - 外壁の地中部分等水密を要する部分
  - 地中部分で水密を要しない部分
  - 上記1、2以外の部分
- ※紙チューブ
- ※ つば付き銅管
- ※ 硬質ポリ塩化ビニル管
- ※ 溶融亜鉛めっき鋼板加工品
- ※ 非加硫ブチルゴム系止水材巻き管
- ※ 硬質ポリ塩化ビニル管は防火区画に使用しない。

10. 目地					
a. 耐震スリット		※ 完全スリットとし、所定の耐火性能、及び、雨(水)掛かり部は防水性能を有すること。			
1) 検査報告	報告書作成(写真添付)		※ 要	・ 不要	
2) 検査方法	※ 目視	・ 計測			
3) 検査箇所数	※ 全数	・ 箇所			
4) 取付時検査項目	仕様	※ 形状	※ 幅	※ 耐火	※ 防水
5) 打設後検査項目	施工状況	※ 取付部位	※ 取付状態	※ 配筋(振止め)	
	施工状況	※ 位置	※ 曲がり		
	型枠取り外し後、孕注者は全数検査を行い、監理者に報告すること。				
b. 仕様及び製造所(製品名)					
1) 鉛直:外部	:				
2) 鉛直:内部	:				
3) 水平	:				

11. 止水板			
a. 止水板種別	※ ブチルゴム系止水板	・ 水膨張性ゴムシール	・
b. 仕様	※ 200×6(鉄板入り)	◎ 20×10	
c. 適用箇所	※ 土に接する部分の打継部	※ 水槽の打継部	・

9節:試験等			
12. 試験(6. 9. 1～6. 9. 5)			
a. 単位水量試験	※ 実施する	※ 実施しない	
b. 試験方法	※ エアメータ法	・ 電子レンジ法	

10節:軽量コンクリート	「本節は本工事に適用せず」
--------------	---------------

x 13. 軽量コンクリート(6. 10. 1～6. 10. 5)									
a. 設計基準強度と適用箇所									
設計基準強度 / 気乾比重 / スランプ / 空気量 / 適用箇所									
種 別 [ 1 種 ] [ 2 種 ]									
設計基準強度 [ N/mm <sup>2</sup> ]									
気乾比重 [ 1.8～2.1 ]									
スランプ [ cm ]									
空気量 [ % ]									
適用箇所									
b. 水セメント比									
※ 95%以下									
c. 単位水量									
※ 175kg/m <sup>3</sup> 以下									
d. 単位セメント量									
※ 320kg/m <sup>3</sup> 以上									
e. 混和材料									
※ AE減水剤									
・ 高性能AE減水剤 [適用箇所: ]									

11節:寒中コンクリート			
「本節は本工事に適用せず」			
x 14. 寒中コンクリート(6. 11. 1～6. 11. 6)			
a. 適用期間	: 日平均気温が4℃以下の期間又は91日間の積算温度が940° DDを下回る期間		
b. 調合管理強度及び調合強度の定め方	※ 予想平均気温	・ 積算温度	
c. 水セメント比	※ 60%以下	・ %以下	

12節:暑中コンクリート			
15. 暑中コンクリート(6. 12. 1～6. 12. 4)			
a. 構造体強度補正係数(S)	※ 6 N/mm <sup>2</sup>	・ N/mm <sup>2</sup>	

13節:マスキング			
「本節は本工事に適用せず」			
x 16. マスキング(6. 13. 1～6. 13. 5)			
a. 適用箇所	:		
b. セメントの種類	・ 普通ポルトランドセメント	※ 中熱ポルトランドセメント	・ 低熱ポルトランドセメント
	・ 高炉セメントB種	・ ファイアセメントB種	・ シリカセメント
c. 混和材料			
1) 混和剤の種類			
2) 混和剤を使用する場合は、JIS A 6201(コンクリート用フライアッシュ)によるフライアッシュのⅡ種又はJIS A 6206(コンクリート用高炉スラグ微粉末)による高炉スラグ微粉末の3000若しくは4000とする。			
d. 単位セメント量	: 品質が得られる範囲内で少なくなるように試し練りで定める。		
e. スランプ	※ 15cm以下	・ cm以下	
f. 構造体強度補正係数(S)	※ 標準仕様書 表B.13.1	・	
g. 荷卸時のコンクリート温度	※ 35℃以下	・ ℃以下	
h. 温度応力解析	※ 適用する	・ 適用しない	
i. コンクリートの温度測定	:		
1) 測定箇所	:		
2) 測定点	・ 点		
3) 測定期間	:	日間	

14節:無筋コンクリート			
17. 無筋コンクリート(6. 14. 1～6. 14. 3)			
a. 普通コンクリート			
設計基準強度 / スランプ / 適用箇所			
[ 18 N/mm <sup>2</sup> ] [ 15 cm ] [ 捨コンクリート ]			
[ 10 N/mm <sup>2</sup> ] [ 10 cm ] [ 防水押入コンクリート、嵩上げコンクリート ]			
x b. 軽量コンクリート			
種 別 [ 1 種 ] [ 2 種 ]			
設計基準強度 [ N/mm <sup>2</sup> ]			
気乾比重 [ 1.8～2.1 ]			
スランプ [ cm ]			
空気量 [ % ]			
適用箇所			
15節:流動化コンクリート			
「本節は本工事に適用せず」			

x 18. 流動化コンクリート(6. 15. 1～6. 15. 4)			
a. スランプと適用箇所			
ベースコンクリート / 流動化コンクリート / 適用箇所			
[ 15 cm ] [ 21 cm ] [ ]			
16節:設計基準強度が36N/mm <sup>2</sup> を超える普通コンクリートの取り扱い			
x 19. 設計基準強度が36N/mm <sup>2</sup> を超える普通コンクリートの取り扱い			
a. 適用する仕様書			
※ JASS5最新版			
b. 設計基準強度と適用箇所			
設計基準強度/スランプ・フロー/適用箇所			
[ N/mm <sup>2</sup> ] [ cm ] [ ]			
[ N/mm <sup>2</sup> ] [ cm ] [ ]			
[ N/mm <sup>2</sup> ] [ cm ] [ ]			

7章:鉄骨工事			
1節:共通事項			
01. 鉄骨製作工場(7. 1. 3)			
a. グレード	・ S	※ H	・ M
b. 施工管理技術者	※ 要	・ 不要	
2節:材料			
02. 鋼材(7. 2. 1)			
a. 使用材の規格番号・規格名称・種類の記号は標準仕様書により、種類、形状及び寸法は図示による。			
b. 鋼材の材料			
※ 鋼材は全て高炉材とする。但し、厚板は電炉材とすることが出来る。			
※ 清形鋼、山形鋼、I形鋼は高炉材、又は、電炉材とする。			
※ 下記の部位は電炉材(広幅平鋼含む)とすることができる。			
・ スプラインプレート		・ H形鋼(小梁、間柱、等の2次部材)	
03. 高力ボルト(7. 2. 2)			
a. ボルトの種類			
※ トルサン形高力ボルト			
認定番号:			
・ JIS高力ボルト		※ セットの種類:2種(F10T)	
※ 溶融亜鉛めっき高力ボルト		※ セットの種類:1種(F8T)	
認定番号:			
b. ねじの呼び		※ 図示	・
04. 普通ボルト(7. 2. 3)			
a. ボルト及びナットの種類		・ 図示	※ 標準仕様書 表7. 2. 3
b. ねじの呼び		※ 図示	・
05. アンカーボルト(7. 2. 4)			
a. 構造用アンカーボルト(JIS B 1220)		※ ABR400	・ ABR490
b. 建方用アンカーボルト(JIS G 3101)		※ SS400	・ SM490
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上の程度は標準仕様書 表7.2.3 による。			
c. ボルトの径及び長さ		※ 図示	
d. 露出型弾性固定柱脚工法		・ 評定取得工法(工法名: )	
06. ターンバックル(7. 2. 6)			
a. ターンバックルはJIS A 5540(建築用ターンバックル)及びJIS A 5541(建築用ターンバックル鋼)とする。			
b. ねじの呼び		※ 図示	・
c. ターンバックルの鋼の種類		※ 割弁式	・ バイブ式
d. ターンバックルボルトの種類		※ 羽子板ボルト	・
07. 床構造用のデッキプレート(7. 2. 7)			
x a. デッキプレート版(デッキプレート単独の構造)			
1) 材質		※ SDP1TG ( )	※ Z12
2) 形状・寸法		※ 図示	・
3) 使用箇所		※ 図示	・
x b. 合成スラブ(デッキプレートとコンクリートの合成スラブとする構造)			
1) 材質		※ SDP2G ( )	※ Z12
2) 形状・寸法		※ 図示	・
3) 使用箇所		※ 図示	・
c. 床型枠用鋼製デッキプレート			
1) 材質		※ JIS G 3302「溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」( )	※ Z12
2) 形状・寸法		※ 図示	・
3) 使用箇所		※ 図示	・
x d. 鉄筋転写デッキプレート			
1) 材料		※ 評定取得品であること。	
2) 形状・寸法		※ 図示	・
3) 使用箇所		※ 図示	・
08. スタッド(7. 2. 8)			
a. 頭付きスタッド			
1) 材質		・ JIS B 1198	
2) 径・長さ		※ 図示	・
3) 使用箇所		※ 図示	・
b. 異形筋スタッド			
1) 材質		・ 機械的性質はJIS G 3112のSD295、SD345と同等品	
2) 径・長さ		※ 図示	・
3) 使用箇所		※ 図示	・
09. 柱底均しモルタル(7. 2. 9)			
a. 材料	※ 無収縮モルタル	・ 標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル	
b. 無収縮モルタルの材料、調合等	※ 公共建築協会 建築材料・設備機器等品質性能評価事業 評価品	・ 標準仕様書7.2.9(2)による	
c. 品質及び試験方法			
※ 標準仕様書 表7. 2. 5			

03. 高力ボルト(7. 2. 2)			
a. ボルトの種類			
※ トルシア形高力ボルト			
認定番号:			
・ JIS形高力ボルト		※ セットの種類:2種(F10T)	
※ 溶融亜鉛めっき高力ボルト		※ セットの種類:1種(F8T)	
認定番号:			
		※ 図示	・
b. ねじの呼び			
04. 普通ボルト(7. 2. 3)			
a. ボルト及びナットの種類		・ 図示	※ 標準仕様書 表7. 2. 3
b. ねじの呼び		※ 図示	・
05. アンカーボルト(7. 2. 4)			
a. 構造用アンカーボルト(JIS B 1220)		※ ABR400	・ ABR490
b. 建方用アンカーボルト(JIS G 3101)		※ SS400	・ SBM400
アンカーボルト及びナットのねじの公称域クラス及び仕上の程度は標準仕様書 表7.2.3 による。		※ SM490	・ SBM490
c. ボルトの径及び長さ		※ 図示	
d. 露出弾性固定柱脚工法		・ 評定取得工法(工法名: )	

4節・高力ボルト接合			
12. 高力ボルト接合(7. 4. 1～7. 4. 9)			
a. すべり試験			
1) 試験の実施	※ 行う	※ 行わない	
2) 試験方法	※ すべり係数試験	※ すべり耐力試験	
3) 試験片の摩擦面の状態	※ 工事で採用する摩擦面の処理方法による		
b. 導入張力確認試験	※ 行う	※ 行わない	
6節・溶接接合			
13. 溶接接合(7. 6. 1～7. 6. 12)			
a. 溶接技能者	※ 建築鉄骨溶接技能者検定(AW検定)の有資格者による。 ・ 標準仕様書7. 6. 3による。		
b. 溶接技能者の技量付加試験			
1) 試験の実施	※ 行う(AW検定合格者は省略可)	※ 行わない	
2) 試験内容			
イ) 試験方法	: 建築鉄骨溶接技能者検定(AW検定)に準じる。		
ロ) 合格判定	: 建築鉄骨溶接技能者検定(AW検定)に準じる。		
3) 建築鉄骨溶接技能者技量検定(AW検定)に合格した者は監理者と協議の上、省略することができる。			
4) 10ポイント溶接を使用する場合は、事前に監理者と協議して承諾を得ること。			
c. 開孔の形状	※ 図示		
d. エンドタブ	※ 鋼製エンドタブ	・ 代替エンドタブ	
e. エンドタブの切断	※ 切断する	・ 切断箇所	※ 全て
	・ 切断面の仕上げ	※ 標準仕様書	・
	・ 切断しない		
f. 検査及び試験			
検査及び試験は先の鋼材、高力ボルト、溶接材料等の項目の他に下記の項目についてJASS 0及び鉄骨精度測定指針により受注者が実施し、検査成績表を監理者に提出して承諾を受ける。尚、立会い確認は抽出確認とする。			
1) 寸寸検査			
イ) 検査の実施	※ 行う	※ 行わない	
ロ) 監理者の立会	※ 有	※ 無	
2) 中間検査			
イ) 検査の実施	※ 行う	※ 行わない	
ロ) 監理者の立会	※ 有	※ 無	
ハ) 検査機関の立会い	※ 有	※ 無	
3) 受入検査			
イ) 検査の実施	※ 行う	※ 行わない	
ロ) 監理者の立会	※ 有	※ 無	
ハ) 検査機関の立会い	※ 有	※ 無	
g. 溶接後の試験			
1) 超音波探傷試験・外観検査			検査率

総則

- 適用範囲
1. 本規準図は設計図（建築図、構造図）のコンクリート造部分に適用する。
  2. 現場説明事項、質疑応答書、特記仕様書および本構造図に記載のない事項はこの規準図による。
  3. 本規準図と他の設計図との間に疑義が生じた場合は監理者の指示による。
  4. 本図を含む構造図の書入れ寸法は特記のない限りmm単位とする。
  5. 本規準図は下記に示す材料を対象とする。  
コンクリート：設計基準強度 18N/mm<sup>2</sup>以上、36N/mm<sup>2</sup>以下  
鉄筋：SD295、SD345、SD390、溶接金網
  6. 本図および構造図などで配筋方法が不明の場合は、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」（最新版）（日本建築学会編）並びに「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」（最新版）（日本建築学会編）に準じ、監理者と協議の上配筋方法を決める。
  7. 前項 6. によって生じた変更は「共通特記仕様書」に示す「軽微な変更」とする。

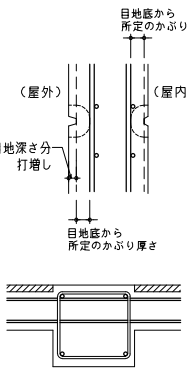
鉄筋のかぶり厚さ

鉄筋のかぶり厚さは下表を標準とし、鉄筋組立後のかぶり厚さは「標準仕様書」表5.3.6「最小かぶり厚さ」<sup>※1</sup>を確保すること。最小かぶり厚さは標準かぶり厚さ－10mmとする。

表1 鉄筋の標準かぶり厚さ

構造部分の種類				標準かぶり厚さ※2
土に接しない部分	スラブ、耐力壁 以外の壁	仕上げあり		30
		仕上げなし		40
	柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり	40
			仕上げなし	40
		屋外	仕上げあり	40
			仕上げなし	50
	擁壁、耐圧スラブ			50
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			50
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			70
煙突等高熱を受ける部分				70

- 〔注〕1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。  
また、塩害を受ける恐れのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、給コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 打継ぎ目地及びびげ割れ誘発目地部分の鉄筋のかぶり厚さは右図の様に目地底から所定のかぶり厚さを確保すること。
6. RC造で柱と梁が同一面の場合は、右図の様に梁幅を30mm増打ちとする。柱又は梁の主筋にD32以上の大径鉄筋を用いる場合は別途定める。
7. 同一部材において必要かぶり厚さが異なる場合、かぶり厚さの取り方は施工図等で十分検討する。



- ※1 最小かぶり厚さ：建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さ。屋外側（仕上げなし）については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さ。
- ※2 標準かぶり厚さ（設計かぶり厚さ）：施工後誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で考慮したかぶり厚さ。

ス パ ー サ ー

スパーサーは特記のない場合は表2 を標準とする。

表2 スパーサーの使用区分

部位	床版	梁	柱
種類	鋼製 コンクリート製	鋼製 コンクリート製	鋼製 コンクリート製
数量 または 配置	上端筋、下端筋 それぞれ 間隔は0.9m程度 端部は0.1m程度	間隔は1.5m 程度 端部は0.5m 程度	上段は梁下より0.5m程度 中段は上段より1.5m間隔程度 柱幅方向は1.0m以下2個 1.0m超え3個
備考		上または下いずれかと、 側面の両側へ対称に設置	同一平面に点対称となる ように設置
部位	基礎	基礎梁	壁、地下外壁
種類	鋼製 コンクリート製	鋼製 コンクリート製	鋼製 コンクリート製
数量 または 配置	間隔は0.9m程度	間隔は1.5m 程度 端部は0.5m 程度	上段は梁下より0.5m程度まで 中段は上段より1.5m間隔程度 横間隔は1.5 m程度 端部は1.5m 程度
備考	基礎の四隅と柱の四隅 に設置	上または下いずれかと、 側面の両側へ対称に設置	

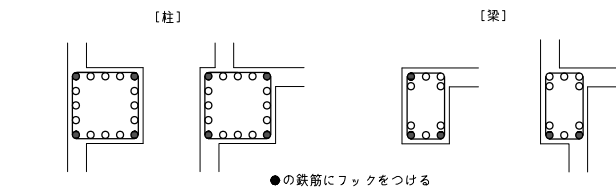
- 〔注〕1. 梁、柱、基礎梁、壁及び地下外壁のスパーサーは側面に限りプラスチック製でもよい。
2. コンクリート製はコンクリート強度30N/mm<sup>2</sup>以上とし、かつ設計基準強度以上とする。
3. 断熱材打込み時のバースポートは支持重量に対して、めり込まない程度の接触面積を持ったものとする。
4. 鋼製スパーサーは、かぶり部分が防錆処理されていること。

鉄筋の折曲げ

表3 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D）		
		SD295,SD345		SD390
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135° 及び 90° （幅止筋）				

- 〔注1〕1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。特記が無い場合は90°フックと同じとする。
- 〔注2〕次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。（フックは180°フックとする）
1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
  2. 梁主筋の重ね継手で、梁の出隅及び下端の面端にある場合。但し、基礎梁を除く。



3. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
4. 杭基礎のベース筋
5. 帯筋、あばら筋及び幅止筋

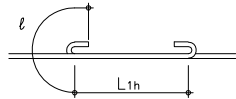
鉄筋の継手及び定着長さ

1. 鉄筋の継手  
鉄筋の重ね継手の長さは次による。  
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- （1）柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、  
建築工事特記仕様書（構造）鉄筋工事 〇3、継手及び定着による。
- （2）（1）以外の鉄筋の重ね継手の長さは、表4による。

表4 鉄筋の重ね継手の長さ


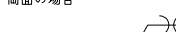

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

- 〔注〕1. L1、L1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2. フックありの場合の L1hは下図に示すようにフック部分ℓを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。



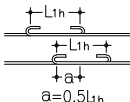
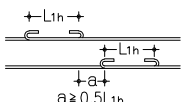
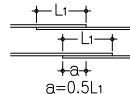
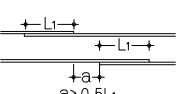
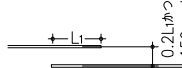
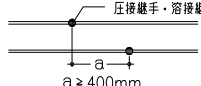
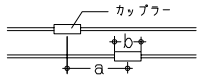
フレア溶接継手の仕様は表5－1による。

表5－1 フレア溶接の形状

<div>フレア 溶接</div> <div>原則として 鉄筋は、 D16以下と する</div>	片面の場合	両面の場合	溶接のビード幅	
			鉄筋径 d	最小値
			10	6
			13	7
			16	8
曲げ加工した鉄筋に使用する場合、折曲げ開始点から フレア溶接末端を1d以上離すこと			 (ビード幅)	

隣り合う継手の位置は表5－2 による。ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。  
なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表5－2 隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合		
	フックなしの場合		  <p>あき重ね継手を使用する場合は、 監理者に確認の上使用すること。</p>
圧接継手	—		圧接継手・溶接継手
機械式継手	—		カップラー

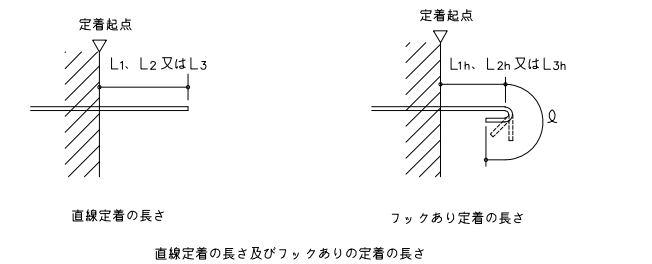
2. 鉄筋の定着  
鉄筋の定着は表6による。

表6 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	直線定着の長さ			フックあり定着の長さ			
		L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ	スラブ
SD295	18	45d	40d	20d (25d)	35d	30d	10d	－
	21	40d	35d		30d	25d		
	24, 27	35d	30d		25d	20d		
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d		
SD345	18	50d	40d	20d (25d)	35d	30d	10d	－
	21	45d	35d		30d	25d		
	24, 27	40d	35d		30d	25d		
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d		
SD390	21	50d	40d	20d (25d)	35d	30d	10d	－
	24, 27	45d	40d		35d	30d		
	30, 33, 36	40d	35d		30d	25d		

- 〔注〕梁主筋の柱内定着の投影定着長さはいずれの場合も柱せいの3/4 倍以上とする。  
（ ）内は片持小梁及び片持スラブの場合。

- 〔注〕1. L1、L1h：2.から4.まで以外の直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ。
2. L2、L2h：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ。
3. L3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L3h：小梁の下端筋のフックありの定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は右上図に示すように、フック部分 を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。



- （3）定着の方法  
仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さℓが、表6 のフックあり定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、下図により、次のイ、ロ及びハをすべて満足するものとする。
- イ、全長は、表6 の直線定着の長さ以上とする。
- ロ、余長は、8d 以上とする。
- ハ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbを表7 に示す長さとする。  
ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4 倍以上とする。

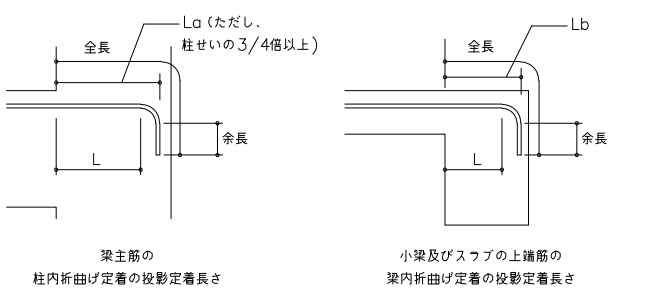
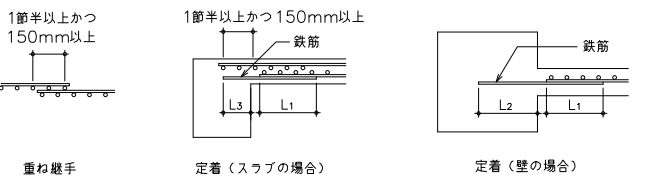


表7 投影定着長さ

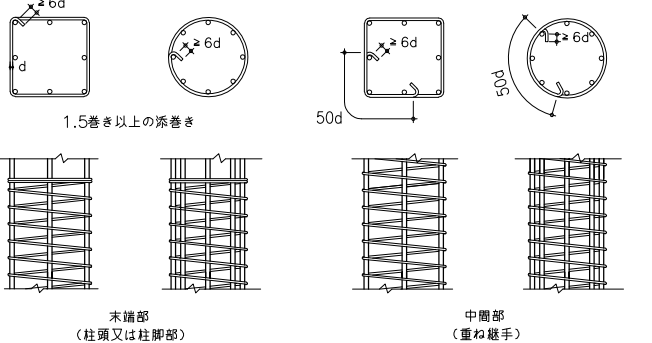
鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	La (但し、柱せいの3/4以上)	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- 〔注〕1. La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む）。
2. Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持小梁及び片持スラブを除く）。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

溶接金網の継手及び定着



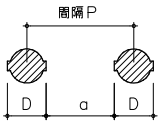
スパイラル筋の継手及び定着





鉄筋のあきと鉄筋間隔

1. 鉄筋相互のあき及び間隔



鉄筋相互のあきaは次の値のうち最大のもの以上とする。  
(ア) 粗骨材の最大寸法の1.25倍  
(イ) 25mm  
(ウ) 隣り合う鉄筋の径（呼び名d）の平均の1.5倍

D: 鉄筋の最大外径

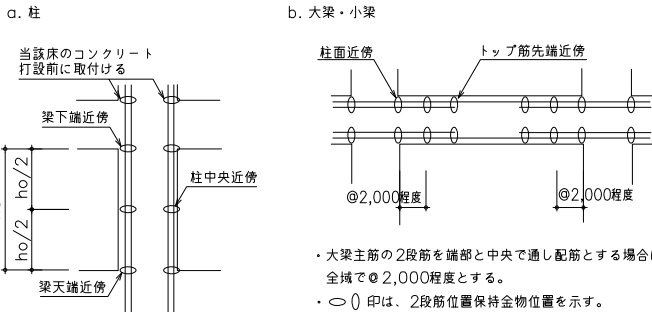
特記なき場合、鉄筋の間隔は下表による。

呼び名	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	14	18	22	26	29	33	37	40	43	47
a の最小値	32	32	32	33	38	44	48	53	57	62
最小鉄筋間隔 P	46	50	54	59	67	77	85	93	100	109

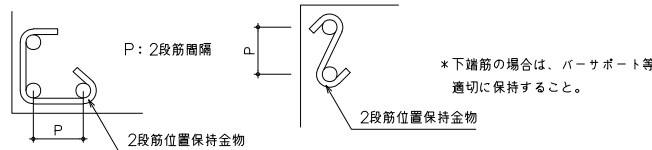
【注1】間隔保持具に既製品を使用する場合は最小鉄筋間隔を用いて選定すること。  
【注2】粗骨材の最大寸法が、25mmの場合を示す。

2. 2段筋位置保持金物の形状および配置

- 2段筋がある場合は、原則として2段筋位置保持金物を下図にない取付けること。



2段筋位置保持金物の配置

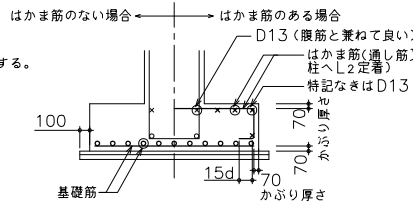


2段筋位置保持金物の形状例

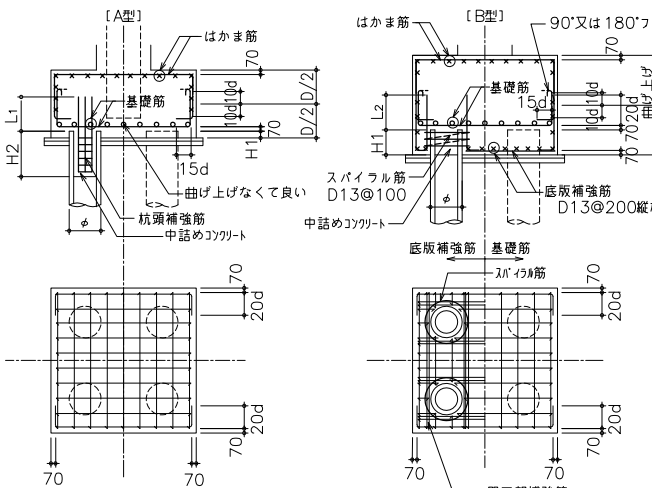
基礎の配筋要領

1. 独立基礎の配筋

- はかま筋は特記による。  
特記無き場合は D13@300縦横 とする。

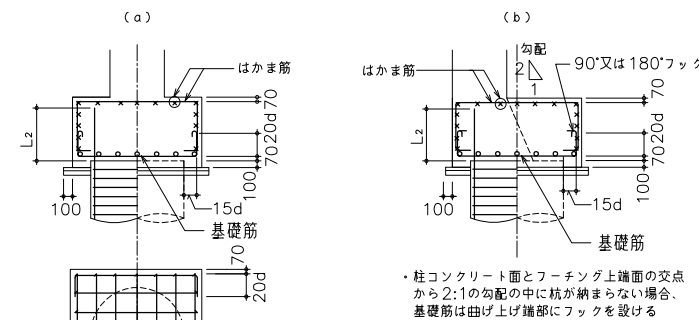


2. 既製コンクリート杭（鋼杭）基礎の配筋

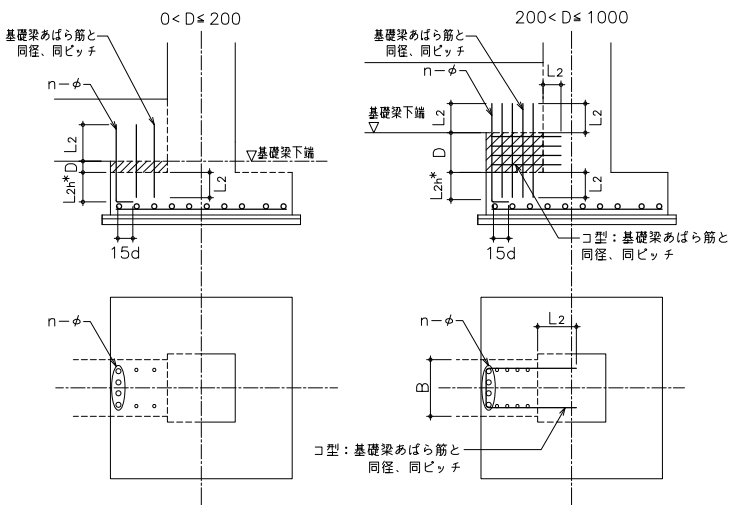


- 1本杭の場合は場所打ち杭の基礎筋に準ずる。
- A型, B型の採用は特記による。
- はかま筋は特記による。特記無き場合は D13@300 縦横 とする。
- 中詰めコンクリートは基礎と同じ割合のコンクリートを使用する。
- 〔A型〕杭頭補強筋の仕様、径、本数は特記による。  
杭頭埋込み深さH1、中詰めコンクリート深さH2は特記による。
- 〔B型〕杭頭埋込み深さH1は特記による。特記無き場合は杭径φとする。

3. 場所打ちコンクリート杭基礎の配筋（1本杭の場合）



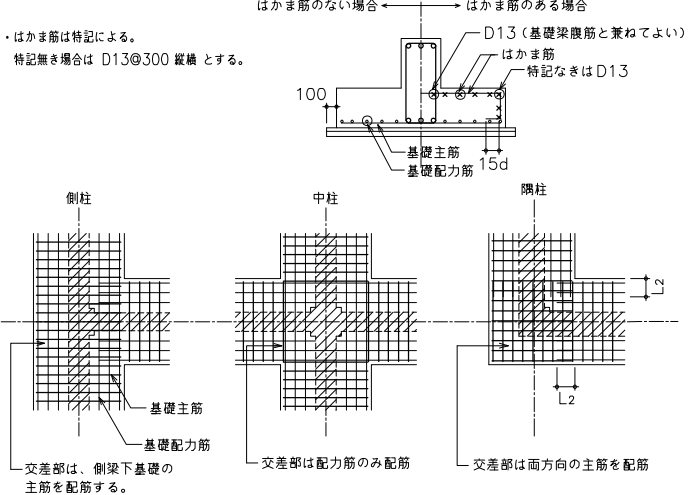
4. 独立基礎と基礎梁の接合部



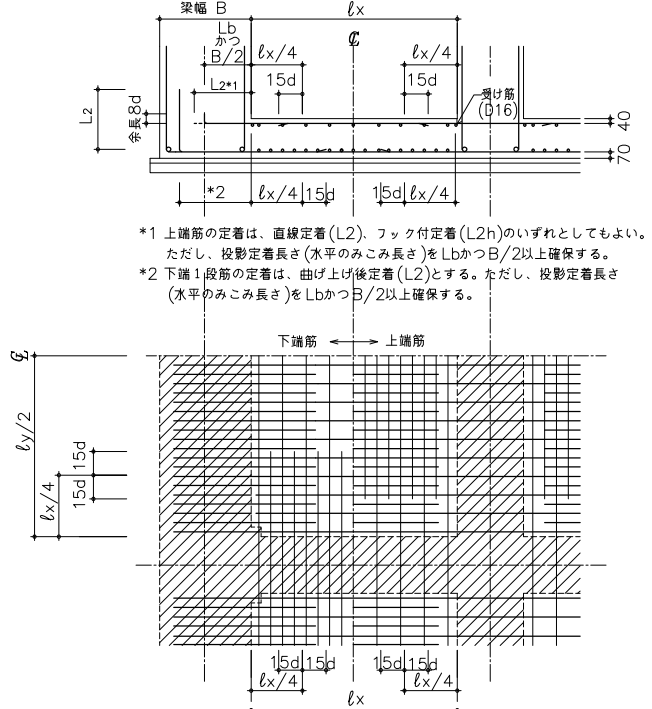
- 補強筋 n-φ は特記による。特記無き場合は右表による。
- D=0の場合、補強筋 n-φ を配筋する。
- D>1000 の場合は特記による。
- \* L2h を確保できない場合は、本図「鉄筋の継手及び定着長さ (3) 定着の方法」による。

梁幅 B	n-φ
B ≤ 500	3-D16
500 < B ≤ 700	4-D16
700 < B ≤ 900	5-D16

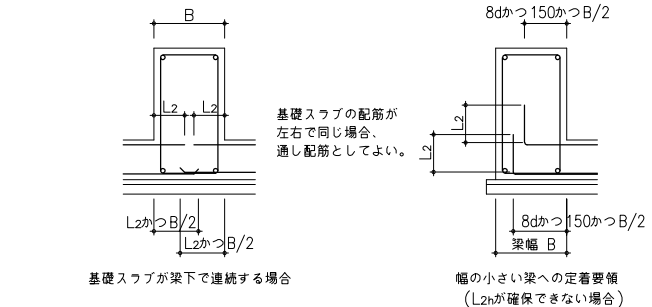
5. 連続（布）基礎の配筋



6. べた基礎の配筋



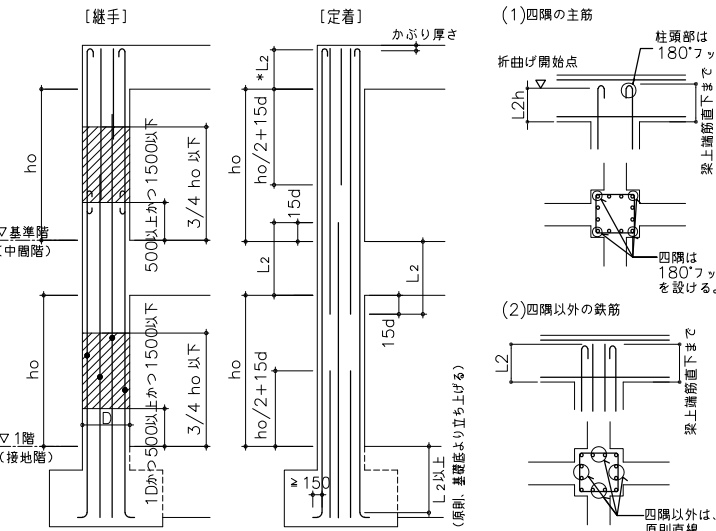
- \*1 上端筋の定着は、直線定着 (L2)、フック付定着 (L2h) のいずれとしてもよい。ただし、投影定着長さ (水平のみこみ長さ) を Lb かつ B/2 以上確保する。
- \*2 下端1段筋の定着は、曲げ上げ後定着 (L2) とする。ただし、投影定着長さ (水平のみこみ長さ) を Lb かつ B/2 以上確保する。



柱の配筋要領

1. 柱主筋の継手及び定着

- 継手位置は下図とする。
- 但し、1階（接地階）柱脚の継手位置は 1 D (D は柱せい) 以上とする。
- 基準階（中間階）の柱頭・柱脚に降伏ヒンジが生じる場合も同様とする。
- 施工上やむを得ず1段目の継手位置を 1500mm 以上とする場合は、監理者と協議する。
- 特記無き限り柱主筋の継手はガス圧接とする。
- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 隣り合う継手の位置は、表5による。



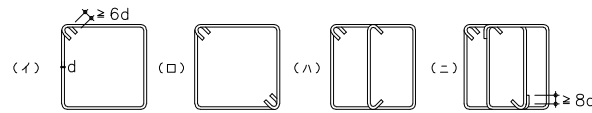
- \* 柱頭定着 L2 が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。
- \* 柱頭柱主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。

2. 柱の帯筋及び副帯筋

a. 帯筋の形状

- 原則として H 形とする。H 形の 135° フックが困難な場合は W-I 形とする。
- フック及び継手の位置は、交互とする。
- 溶接長さ L は両面フレア溶接の場合は 5d 以上、片面フレア溶接の場合は 10d 以上とする。
- 円形柱の場合は原則として SP 形とし、SP 形が困難な場合は丸形とする。

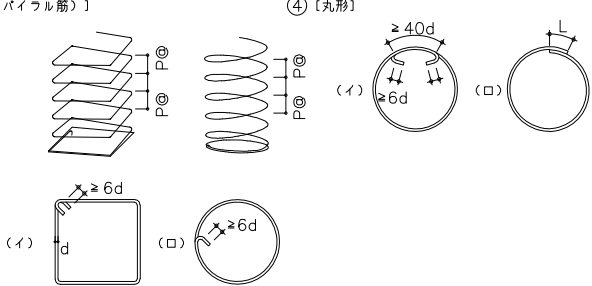
①〔H形〕



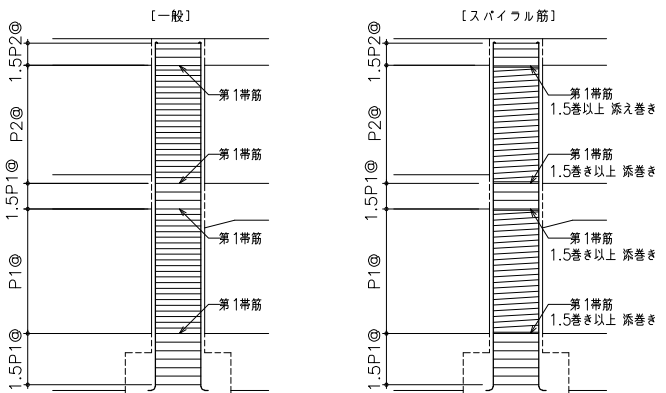
②〔W-I形〕



③〔SP形（スパイラル筋）〕



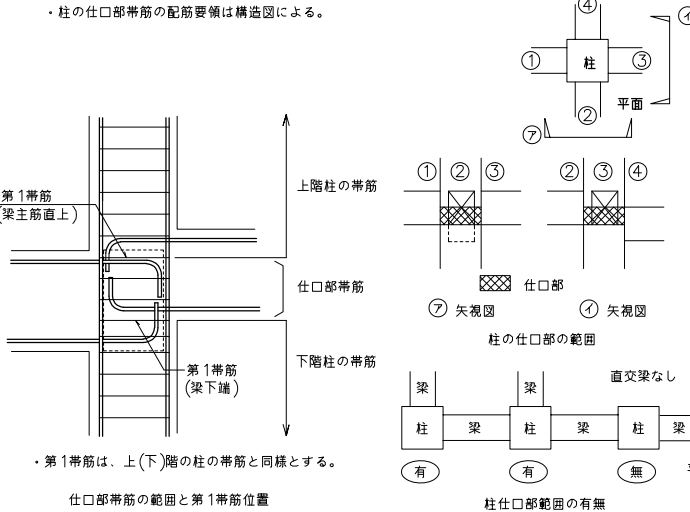
b. 帯筋の割り付け



- P1@、P2@ は柱リストに特記された帯筋間隔を示す。
- 柱梁接合部の帯筋間隔は柱リストによる。柱リストに記載がない場合は、一般部の 1.5 倍以下かつ 150mm 以下かつあばら筋比 pw=0.2% 以上とする。なお、この部分には副帯筋は配筋しない。
- スパイラル筋において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5 巻き以上の添巻きを行う。

3. 柱の仕口部（柱・梁接合部）

- 柱の仕口部の範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付く全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。（柱の仕口部の範囲 参照）
- 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、仕口部帯筋配筋は適用しない。（柱仕口部範囲の有無 参照）
- 柱の仕口部帯筋の範囲は、下図「仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置」による。
- 柱の仕口部帯筋の配筋要領は構造図による。

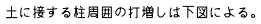


- 第1帯筋は、上(下)階の柱の帯筋と同様とする。

仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置

柱仕口部範囲の有無

・上下階の鉄筋のかぶり厚さが異なる場合、寸法eは上下階の柱主筋位置の水平距離とすること。



- ・梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合には、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
- ・梁筋を柱内に定着する場合は、2.大梁の継手、定着及び余長(2)による。

(ただし耐圧スラブが付く場合は、設計者と協議により  $d$  とする)

\*  $L_a$ の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

(1) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、  
(2) により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、次による。

鉄筋の破線は、柱内定着の場合を示す。

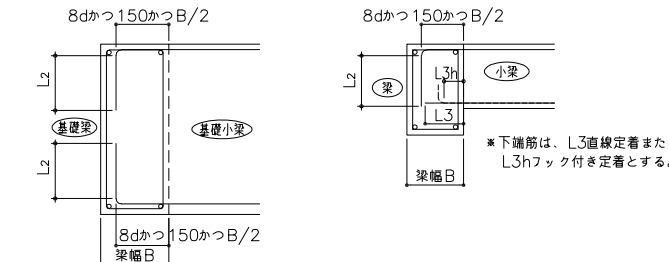
梁主筋の重ね継手は、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）。  
下端主筋のうち、側面の主筋はハンチ位置で折曲げて通すこと。

\*  $L_d$  の数値は、原則として、柱せいの  $3/4$  倍以上とする。

- ・（イ）形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、（ロ）又は（ハ）、T形梁の場合は、（ロ）～（ニ）とすることができる。
- ・フックの位置は、（イ）の場合は交互とし、（ロ）の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、（ハ）の場合は、床版の付く側を90°折曲げとする。

・ P1@、P2@ は梁リストに特記されたあばら筋間隔を示す。

・基礎梁のあばら筋は、XYの片方向（配筋の多い方）を交差部に配筋する。尚、副あばら筋は配筋しなくても良い。



2. 片持ち梁主筋の継手、定着及び余長

○. 先端に小梁のない場合

2段筋は先端部の曲げ不要

・先端の折曲げの長さLhは、梁せいから被り厚さを除いた長さとする。  
\* Lhの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。  
\* L3hを確保出来ない場合は、欄仕5.3.4(5)(イ)によることができる。

○. 先端に小梁がある場合

・先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。  
・先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

柱梁の打増し補強配筋

1. 打増し補強配筋  
〔柱の打増し〕

〔梁の打増し〕

・軸方向補強筋は打増し幅により下記による。  
A<70: 不要  
70≦A<200: D16@250以下  
200≦A: D19@200以下

・置きスラブ及び土間スラブの打継ぎ補強は上記に準ずる。

壁の配筋

1. 壁の配筋

・壁筋の定着長さは、L2とする。  
・壁筋の重ね継手長さは、L1とする。  
・重ね継手はあき重ね継手としてもよい。  
・P1@、P2@は壁リストに特記された壁筋間隔を示す。  
・幅止め筋は縦筋横筋共に、D10@1000程度とする。

2. 定着

○. 柱への定着

○. 梁への定着

○. スラブへの定着

○. 壁交差部の配筋

○. 耐力壁の端部・開口部小口補強

(注) 1.耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径、同間隔とする。  
2.L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。  
3.壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

3. 開口補強筋

○. 鉄筋による開口補強要領

○. 耐力壁の端部・開口部小口補強

(注) 1.耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径、同間隔とする。  
2.L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。  
3.壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

○. 小開口が密集している場合の開口補強要領

○. 単独円形小開口の場合の配筋要領

〔注〕 1. 壁開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は補強を省略することができる。  
2. 開口によって切断される鉄筋と同量以上の鉄筋で周囲を補強する（縦筋横筋とも）。  
3. 補強筋は鉄筋の間隔を50mm程度あけて配筋する。  
4. 斜め補助筋は縦筋横筋の内側に配筋する。  
5. 開口が梁に接している場合は、補強筋の定着長さは梁面からの長さとする。

4. 壁の打増し補強  
壁の打増し厚さ（a）が50mm以上の場合の補強を示す。

5. 地下外壁

6. 外壁ひび割れ防止筋  
建築物諸部スパンに設ける補強筋の例

4～5スパンかつ20m<L<40mの場合

○. 片持ちスラブの配筋

○. 耐力壁の端部・開口部小口補強

(注) 1.耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径、同間隔とする。  
2.L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。  
3.壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

スラブの配筋

1. スラブの配筋

1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。  
2. 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。

2. 定着

○. 耐力壁の端部・開口部小口補強

(注) 1.耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径、同間隔とする。  
2.L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。  
3.壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

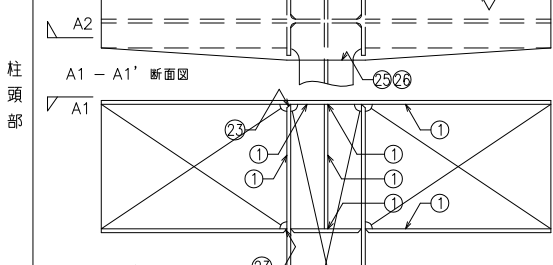
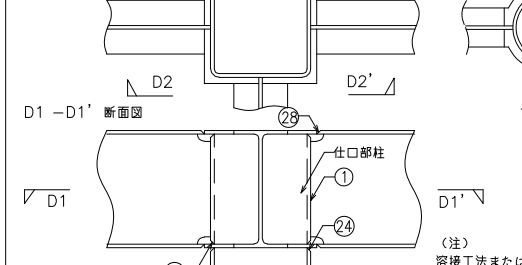
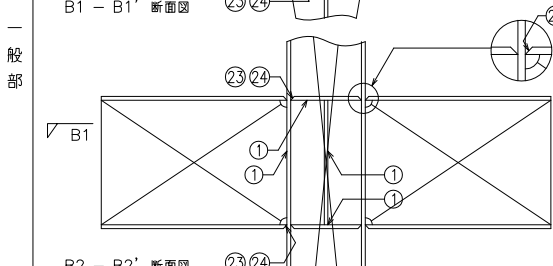
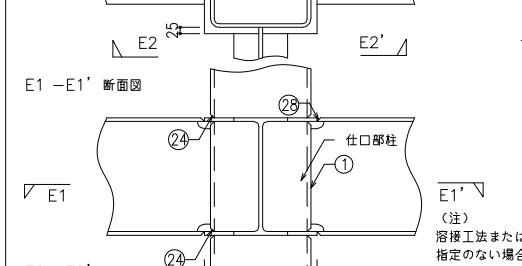
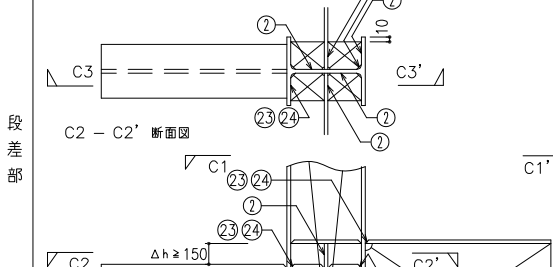
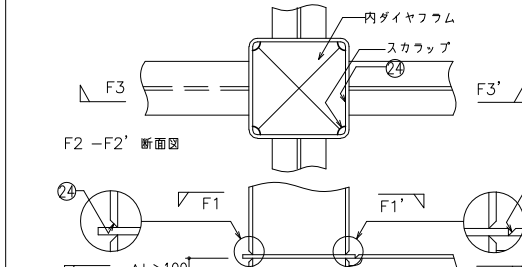


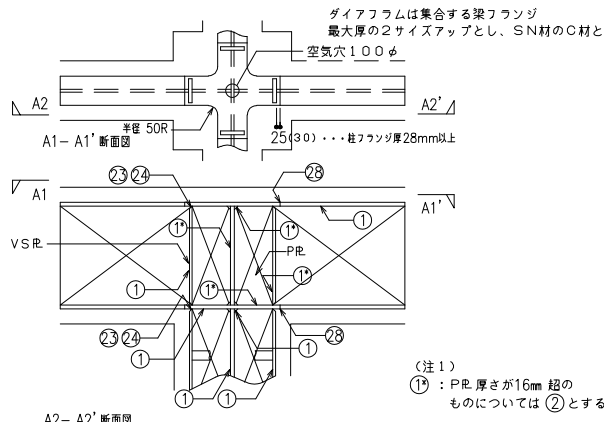
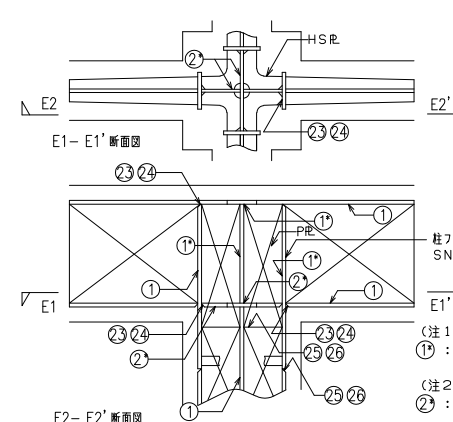
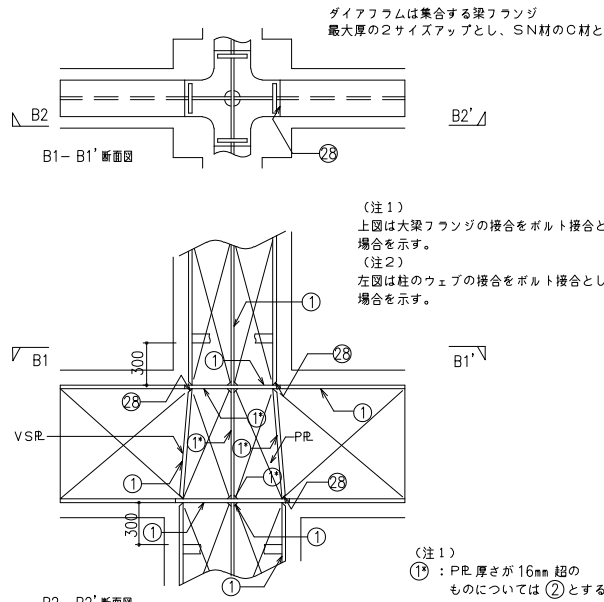
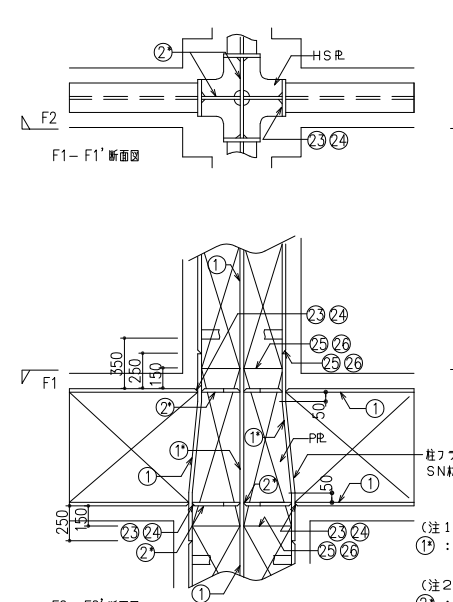
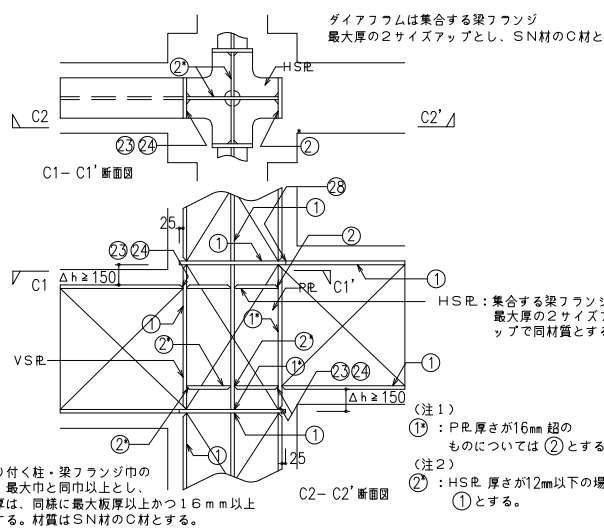
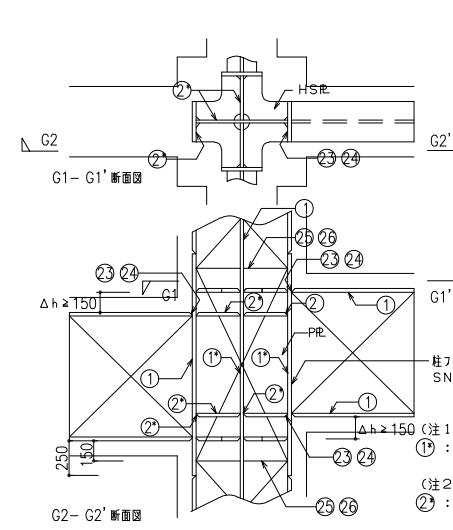
1		2		3		4		5		6		7																					
<p>すみ肉溶接</p>		<p>部分溶込み溶接</p>		<p>注) Sはサイズを示し、tはt1、t2の薄い方の板厚とする。</p> <p>90°≧θ≧75</p>		<p>注) 溶接長 (L) および溶接ピッチ (P) は特記する。</p>				<p>注) αはのど厚を示し、tは薄い方の板厚とする。 αはtかつ3、2mm以上とする。</p>																							
<p>適用板厚 2≦t≦12 交 角 30°≦θ≦90° 容積比 d/D≦1/3</p>		<p>注) Sはサイズを示す。</p>		<p>注) αはのど厚を示す。 αはかつ0.3d≦L Lは10dかつ100mm以上とする。</p>																													
<p>21</p>		<p>22</p>		<p>23</p>		<p>24</p>		<p>25</p>		<p>26</p>																							
<p>注) Sはサイズを示し、t/4以上かつ10mm以下とする。 θ≧45° の場合に適用する。 40°≦θ≦50° の場合 α:自然開先 55°≦θ の場合 α:≧35°</p>																																	
<p>41</p>		<p>42</p>		<p>43</p>		<p>44</p>		<p>注記</p> <p>1. この標準図は、記入なき限り手溶接及びガスソールド半自動溶接による標準溶接継手の形状を示す。 2. t≦6mm の場合の合せ溶接部の開先は不要とする。 3. 裏あて金はサイズ6mmで、連続すみ肉溶接を原則とする。 4. エンドタブは、溶接後5mm程度残して切断し、端部を仕上げる。 設計図に表す溶接長さの寸法は有効長さとし、すみ肉のサイズの1.0倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点及び、クレークを除いた部分の長さとする。 5. スニップカット 溶接の交差部をスニップカット (Sc) で処理する場合の標準寸法は、鋼材の板厚に依りて表-1によるものとし、スニップカット部は、溶接により埋めることとする。 ただし、既製鋼のスニップカットは Sc = r + 2 により求めるものとする。</p>																									
<p>エンドタブ</p> <p>エンドタブは原則として母材と同様のものを用い、長さは下表による。</p>		<p>スカーフアップ</p> <p>スカーフアップ半径は、35mmを標準とする。 柱梁接合部 (工場溶接部) のスカーフアップはノンスカップ工法とする。 柱梁接合部 (工場溶接部) のスカーフアップに改良型スカップ工法を採用する場合は下図とし、監理者の承認を得ること。</p>		<p>スニップカット</p>		<p>表-1</p> <table><tr><td>t</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>16</td><td>19</td></tr><tr><td>Sc</td><td>10</td><td>12</td><td>14</td><td>15</td><td></td></tr></table>		t	6	9	12	16	19	Sc	10	12	14	15		<p>表-2</p> <table><tr><td>t</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>16</td><td>19</td></tr><tr><td>Sc</td><td>10</td><td>12</td><td>14</td><td>15</td><td></td></tr></table>		t	6	9	12	16	19	Sc	10	12	14	15	
t	6	9	12	16	19																												
Sc	10	12	14	15																													
t	6	9	12	16	19																												
Sc	10	12	14	15																													





1. 一般事項 標準詳細図及び設計図に記載なき事項は、建設大臣官房官庁建築監修「教育設計標準図」（最新版）及び「建築工事共通仕様書」（最新版）による。さらに、記載のない場合は、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS6 鉄骨工事」（最新版）による。
2. CFT柱は、CFT柱標準図も参照のこと。

仕口部詳細 (S造)	鋼管柱
<div data-bbox="92 268 786 359"> <p>H 型 柱</p>  <p>上フランジ 下フランジ</p> <p>A2 - A2' 断面図</p> <p>A1 - A1' 断面図</p> </div> <div data-bbox="623 508 786 688"> <p>(注)</p> <p>1. 溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。</p> <p>2. ①: ウェブ厚が 16mm 超のものについては ② とする。</p> </div>	<div data-bbox="786 268 1391 359"> <p>鋼管柱</p>  <p>D2 - D2' 断面図</p> <p>D1 - D1' 断面図</p> </div> <div data-bbox="1178 573 1391 688"> <p>(注)</p> <p>溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。</p> <p>ダイヤフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、S/N材のC材とする。</p> </div>
<div data-bbox="92 697 786 854"> <p>一般部</p>  <p>スニップカット</p> <p>B2 - B2' 断面図</p> <p>B1 - B1' 断面図</p> </div> <div data-bbox="623 854 786 1159"> <p>(注)</p> <p>1. 溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。</p> <p>2. ①: ウェブ厚が 16mm 超のものについては ② とする。</p> <p>3. ②: 水平スチフナ厚が 12mm 以下の場合は ① とする。</p> </div>	<div data-bbox="786 697 1391 854">  <p>E2 - E2' 断面図</p> <p>E1 - E1' 断面図</p> </div> <div data-bbox="1178 1018 1391 1159"> <p>(注)</p> <p>溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。</p> <p>ダイヤフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、S/N材のC材とする。</p> </div>
<div data-bbox="92 1167 786 1348"> <p>段差部</p>  <p>スニップカット</p> <p>C2 - C2' 断面図</p> <p>C1 - C1' 断面図</p> </div> <div data-bbox="623 1514 786 1818"> <p>(注)</p> <p>1. 溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。</p> <p>2. ①: ウェブ厚が 16mm 超のものについては ② とする。</p> <p>3. ②: 水平スチフナ厚が 12mm 以下の場合は ① とする。</p> </div>	<div data-bbox="786 1167 1391 1348">  <p>F2 - F2' 断面図</p> <p>F1 - F1' 断面図</p> </div> <div data-bbox="1178 1629 1391 1818"> <p>(注)</p> <p>溶接工法または溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。</p> <p>HS 用: 集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップで同材質とする。</p> <p>ダイヤフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、S/N材のC材とする。</p> </div>

仕口部詳細 (SRC造)			
位置	十字形はり通し		十字形柱通し
柱頭部	<p>ダイヤフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、SN材のC材とする。</p>  <p>(注1) ①<sup>*</sup>: P.R.厚さが16mm 超のものについては ②とする。</p>		 <p>柱フランジ最大厚と同厚とし、SN材のC材とする。</p> <p>(注1) ①<sup>*</sup>: P.R.厚さが16mm 超のものについては ②とする。 (注2) ②<sup>*</sup>: HS.R.厚さが12mm以下の場合は ①とする。</p>
一段部	<p>ダイヤフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、SN材のC材とする。</p>  <p>(注1) ①<sup>*</sup>: P.R.厚さが16mm 超のものについては ②とする。</p>		 <p>柱フランジ最大厚と同厚とし、SN材のC材とする。</p> <p>(注1) ①<sup>*</sup>: P.R.厚さが16mm 超のものについては ②とする。 (注2) ②<sup>*</sup>: HS.R.厚さが12mm以下の場合は ①とする。</p>
一段差部	<p>ダイヤフラムは集合する梁フランジ最大厚の2サイズアップとし、SN材のC材とする。</p>  <p>VS.R: 取り付く柱・梁フランジ巾の内、最大巾と同巾以上とし、板厚は、同様に最大板厚以上かつ16mm以上とする。材質はSN材のC材とする。</p> <p>(注1) ①<sup>*</sup>: P.R.厚さが16mm 超のものについては ②とする。 (注2) ②<sup>*</sup>: HS.R.厚さが12mm以下の場合は ①とする。</p>		 <p>柱フランジ最大厚と同厚とし、SN材のC材とする。</p> <p>(注1) ①<sup>*</sup>: P.R.厚さが16mm 超のものについては ②とする。 (注2) ②<sup>*</sup>: HS.R.厚さが12mm以下の場合は ①とする。</p>

特記事項凡例

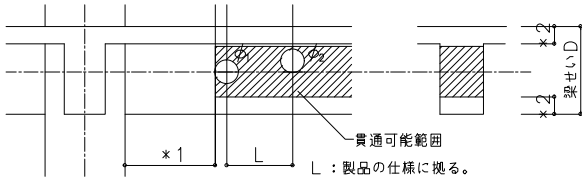
- 1) 特記事項は○印のついたものを適用する。  
2) ○印のない場合には、\*印のあるものを適用する。  
3) ○印と\*印のある場合は、共に適用する。

＜鉄筋コンクリート部分＞

1. 一般事項
1. 1 既製補強筋は評定、評価又は建築技術性能証明を取得したものとす。
1. 2 使用材料  
既製補強筋の使用材料は各製品で定める仕様による。
1. 3 貫通孔の径及び数量  
\* 径及び数量は表に示す。  
・ 径及び数量は別図・別表に示す。

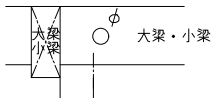
2. 共通事項

1. 孔径φは、躯体貫通孔径（スリーブ管・ボイド管）の外径を示す。  
2. 孔径φの大きさの規定は、製品の仕様による。  
3. 柱際から貫通孔中心までの距離は、製品の仕様による。  
4. 貫通孔中心間距離Lは、製品の仕様による。  
5. レベルが異なる貫通孔の中心間距離は水平距離とする。  
6. ヘリあきの最小寸法は、製品の仕様による。  
但し、主筋との設計かぶり厚さが確保出来るようにヘリあき寸法を決定すること。



- \* 1 基礎梁は、保有水平耐力時にヒンジが生じないことを確認した場合の離隔距離は1/2D以上又は1.0m以上とし、設計者の承諾を得ること。  
この場合でも人通孔は極力スパン中央に設けること。
- \* 2 製品の仕様による。  
梁主筋が多段筋の場合、最下段筋との設計かぶり厚さが確保できるようにヘリあき寸法を決定すること。

7. 貫通孔を設ける大梁・小梁に直交する梁がある場合、貫通孔は開口補強筋が梁の配筋に干渉しない位置（直交する梁側面より300mm程度離す）、かつ、製品の仕様による。



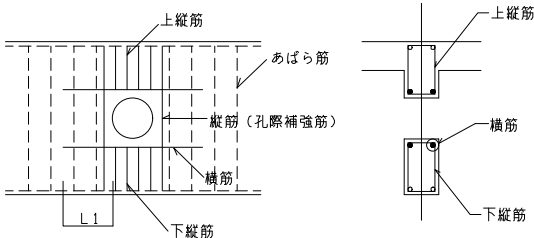
開口補強筋が梁の配筋に干渉しない位置  
かつ、製品の仕様による

8. 孔径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することが出来る。この場合、スターラップが無開口の時に配筋される組数と同組数以上になるように、孔の両側でピッチ調整をすること。
9. スリーブ管・ボイド管の固定には、防錆処理された鉄筋または金物を用いること。
10. 孔際あばら筋の位置及び間隔は、製品の仕様による。
11. 通気管呼び径100φ、通水管呼び径150φ半割り以下の場合は上下で同位置に配置することが出来る。

3. 既製補強筋に関する規定

3. 1 一般事項
1. 製造所（製品名）：コーリョー建販 同等品
2. 補強計算用設計せん断力
- 1) 無孔梁としたときの終局せん断強度は製品の仕様による。
- 2) 単純支持としたときの長期荷重によるせん断力は構造計算書の値を用いる。
3. 採用する製品による梁貫通補強計算を行い、設計者の承諾を得ること。

3. 2 開口部上下補強筋



開口径：製品の仕様による  
上下縦筋：製品の仕様による。仕様がない場合は、一般部あばら筋と同径、同種とし、一般部あばら筋の間隔以下とする。  
横筋：製品の仕様による。仕様がない場合は、一般部あばら筋より一段上の径以上とする。

梁貫通補強数量、及び、補強仕様

貫通孔径（内径）	補強仕様 形式－種別－枚数	個所数
100φ	I－2R	244
	II－2R	24
	III－2R	34
	IV－2R	16
	V－2R	99
	V－3R	84
	IV－3R	－
150φ	V－3R	9
	I－2R	41
	II－2R	3
	III－2R	5
	IV－2R	－
175φ	V－2R	22
	I－2R	22
	II－2R	20
	III－2R	－
	IV－2R	－
200φ	V－2R	17
	I－2R	－
	II－2R	－
	III－2R	3
	IV－2R	3
200φ	V－2R	－
	I－2R	－
	II－2R	3
	III－2R	－
	IV－2R	24
250φ	V－2R	－
	I－2R	46
	II－2R	－
	III－2R	－
	IV－2R	8
250φ	V－2R	－

貫通孔径（内径）	補強仕様 形式－種別－枚数	個所数
300φ	I－2R	17
	II－2R	－
	III－2R	－
	IV－2R	－
	V－2R	－
600φ	I－2R	－
	II－2R	36
	III－2R	－
	IV－2R	－
600φ	V－2R	－
	IV－3R	4

特記事項凡例

- 1) 特記事項は○印のついたものを適用する。  
2) ○印のない場合には、\*印のあるものを適用する。  
3) ○印と\*印のある場合は、共に適用する。

＜鉄骨部分＞

3. 既製品を用いる場合

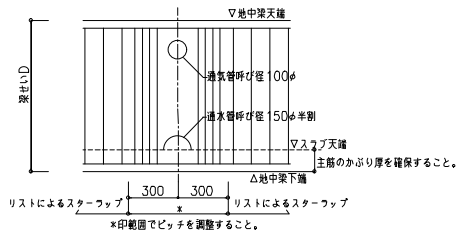
3. 1 一般事項
1. 製造所（工法名）：ダイヤリング工法同等品
2. 補強設計の方法は工法の評定で定められた方法に拠る。  
尚、存在応力は構造計算書の値を用いること。
3. 補強する梁の適用範囲（梁せい・幅、ウェブ厚、材種、等）は工法の評定条件に拠る。
4. 貫通孔の適用範囲（径、配置、離隔、等）は工法の評定条件に拠る。
5. 軸力が作用する梁への適用は工法の認定条件に拠る。

3. 2 梁貫通補強数量、及び、補強仕様

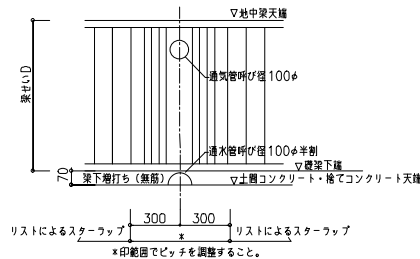
貫通孔径	補強仕様	数量			
100φ	DL100	40			

連通管・通水管の納まり、及び、補強要領

(a)通水管を基礎梁に通す場合



(b)通水管を基礎梁下に通す場合



履歴

作成 日付 監理技術者 担当者	作成 日付 監理者 担当者
--------------------------	------------------------

完成図作成（原注者名）

完成図承認 日付 監理技術者 担当者	完成図承認 日付 監理者 担当者
-----------------------------	---------------------------

完成図承認

完成図承認 日付 監理技術者 担当者	完成図承認 日付 監理者 担当者
-----------------------------	---------------------------

法適合確認 構造設計一級建築士 山田 和生 証交付番号 第11279号 本図（仕様書）に記載された事項は、構造関係規定に適合することを確認した。 構造設計一級建築士 山田 和生 証交付番号 第11279号	法適合確認 設備設計一級建築士 山田 和生 証交付番号 第11279号 本図（仕様書）に記載された事項は、設備関係規定に適合することを確認した。 設備設計一級建築士 山田 和生 証交付番号 第11279号
---	---

製作日

製作日 ファイル名
--------------

代表設計者

代表設計者 一級建築士 大臣登録第280701号 西 重隆 日付 2025.03.31
--

設計者

設計者 一級建築士 大臣登録第370830号 山田 和生 担当者
--

業務名称

業務名称 （仮称）福岡市総合体育館新築工事 図面名称 梁貫通補強要領図
--

業務契約コード

業務契約コード 108557-02 縮尺 A1: - A3: -
--

図面番号

図面番号 S-05-1
----------------

管理建築士

管理建築士 一級建築士 大臣登録第280701号 西重隆
---------------------------------------

RC梁貫通孔補強材 設計・施工標準仕様書

BCJ評定-RC0124-08, BCJ評定-SS0056-01

2024.9.30作成

1. 一般事項

- (1) 本仕様書は、ダイヤレンSの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。  
(2) 本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、(一財)日本建築センター及び(一社)日本建築学会の関連する諸指針や諸規準、ダイヤレンS技術マニュアルによる。

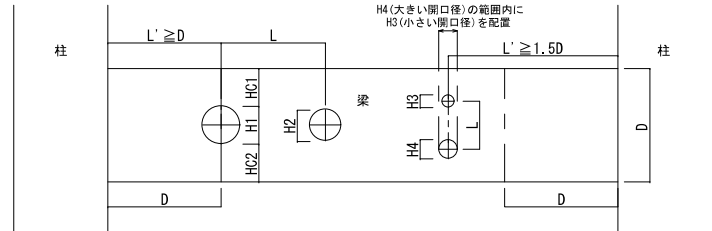
2. 使用材料・貫通孔の適用範囲

(1) 各評定の適用範囲

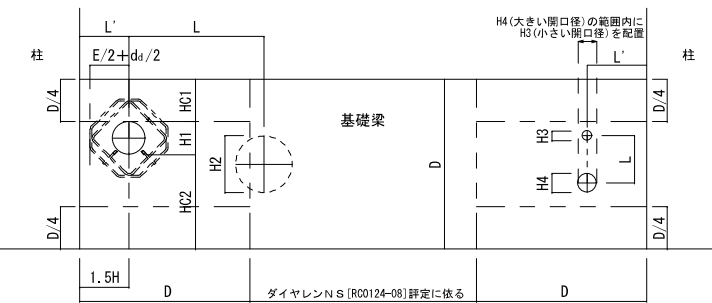
	ダイヤレンS	ダイヤレンSを用いた基礎梁端部小開口補強
評定番号	[RC0124-08]	[SS0056-01]
対象とする部材	RC造及びSRC造の梁	非降伏のRC造の基礎梁かつ、有効な柱梁接合部に接続する基礎梁※
コンクリート	$F_c=21\text{N/mm}^2\sim 100\text{N/mm}^2$	$F_c=21\text{N/mm}^2\sim 45\text{N/mm}^2$
鉄筋	主筋 : 基準強度295～490N/mm <sup>2</sup> のJIS鉄筋、490を超え685N/mm <sup>2</sup> 以下の大臣認定品 あばら筋 : 基準強度295～490N/mm <sup>2</sup> のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm <sup>2</sup> 以下の大臣認定品 ダイヤレンS : KSS785-K (MSRB-0004)、MK785 (MSRB-0067)	
梁せい(D)	-	$D\geq 750\text{mm}$
開口形状	円形または多角形とする(多角形の場合はその外接円を開口とみなす)	
開口径(外径)(H)	$H\leq 750\text{mm}$ かつ $H\leq D/3$	$H< 350\text{mm}$ かつ $H\leq D/5$
上下に複数開口を設ける場合の合計径(ΣH)	$\Sigma H\leq D/3$	$\Sigma H\leq D/3.75$
柱から開口中心までの距離(L')	$L'\geq D$ 上下に複数開口を設ける場合は $L'\geq 1.5D$	$L'< D$ かつ $L'\geq 1.5H$ かつ $L'\geq E/2+d_d/2$
隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離(L)	隣接する開口径の平均値の3倍以上	
へりあき(HC1, HC2)	$HC1, HC2\geq (E-H)/2+d_d/2+d_w+t_c$	$HC1, HC2\geq (E-H)/2+d_d/2+d_w+t_c$ かつ $HC1, HC2\geq D/4$

E: ダイヤレンSのE寸法  
d<sub>d</sub>: ダイヤレンSの鉄筋の呼び径  
d<sub>w</sub>: あばら筋の呼び径  
t<sub>c</sub>: コンクリートのかぶり厚さ(40mm以上)

【RC0124-08】



【SS0056-01】

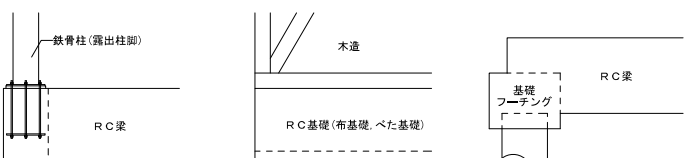


※有効な柱梁接合部に接続する基礎梁とは、梁端部にRC造の柱梁接合部を有する基礎梁をいう。

また、WRC造の場合も、壁柱と基礎梁の接合部を有効な柱梁接合部とみなすことができる。

なお、以下の基礎梁は対象外とする。

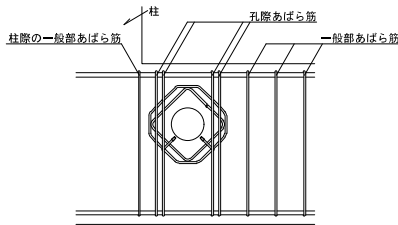
- 鉄骨造及び混構造で鉄骨柱が露出柱脚の場合の基礎梁
- 小規模木造の基礎梁(木造住宅等の布基礎及びべた基礎等)
- 端部にRC造の柱梁接合部が無く、独立基礎又は杭基礎の基礎フーチングのみを有する基礎梁



【対象外とする基礎梁の例】

3. 仕様規定

- (1) ダイヤレンSの使用枚数は、開口1箇所当たり2枚以上とする。  
(2) 柱際には、孔際あばら筋の他、少なくとも1組の一般部あばら筋(第一あばら筋)を配筋する。[SS0056-01]

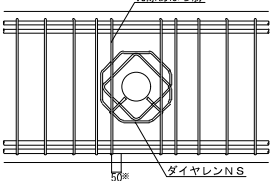


4. 開口部あばら筋の配筋要領

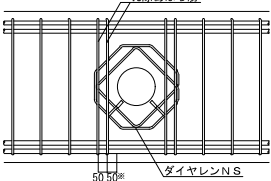
- (1) 開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。  
(2) 孔際あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。[SS0056-01]  
(3) 孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

開口径	一般部あばら筋比(p <sub>w</sub> )
H<150	1組
150≤H<300	2組
300≤H	3組

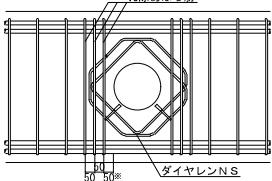
【1組】



【2組】



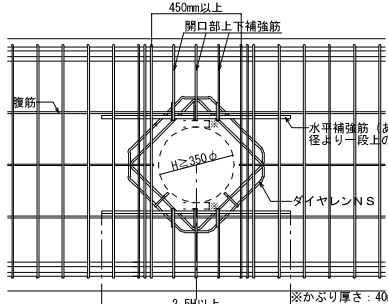
【3組】



※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は50mmとする。

5. 開口部上下補強要領(350φ以上の場合)

- (1) 開口の左右に配筋する1組目の孔際あばら筋の間隔が梁せいの1/2以上または450mm以上(開口径で350mm以上)になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。  
ただし、水平力による応力を負担しない梁(小梁等)の場合は梁せいの1/2は考慮しなくともよい。  
(2) 開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。(丸鋼及びビントは不可)  
(3) 形状にはコ型・U型・Π型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅-2×かぶり厚さ」または35d以上とし、水平補強筋側(梁内側)の重ね長さは12d以上とする。ただし、梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d(dは鉄筋の呼び径)以下の場合は、U型またはΠ型の形状で補強を行う。  
(4) 水平補強筋は、一般部あばら筋より1段上の径以上とし(SD295A程度)、開口径の2.5倍以上の長さとする。



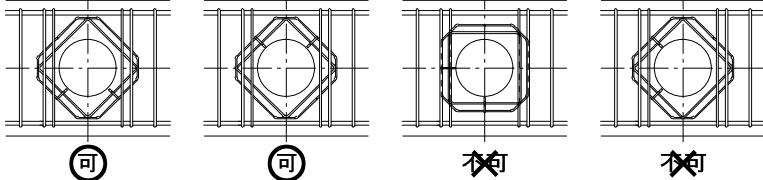
【開口上下部分の補強要領(U型補強筋で補強する場合の例)】

6. 施工要領例

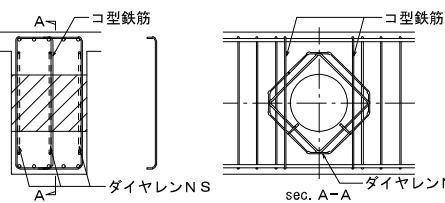
- (1) 型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。  
(2) 補強設計上必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。  
(3) 孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、東ね配筋にすることができる。  
(東ね配筋は、2組までは東ねることができるが、3組以上は東ねてはならない。)  
(4) ダイヤレンSを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に4か所以上結束する。  
(5) スリーブをダイヤレンSのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。  
(6) 開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

7. 施工における注意事項

- (1) ダイヤレンSはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」の向きになるように施工すること。



- (2) 補強設計によって中子筋が無い梁に対して3枚以上のダイヤレンSが必要になった場合は、右図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ1本以上配筋し、この鉄筋にダイヤレンSを結束して固定する。




8. ダイヤレンS標準製品寸法表

(特記外単位: mm)											
スリーブ径 (対応径)	型	サイズ	寸 法						形状	重量 (kgf/枚)	Ho
			A	B	C	D	E	F			
100φ (H≤115)	I	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	II	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	III	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	IV	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	V	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	V-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292
125φ (H≤141)	I	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222
	II	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	III	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	IV	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	V	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	234
	V-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299
150φ (H≤166)	I	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	II	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	III	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	IV	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	V	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	V-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ (H≤191)	I	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	II	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	III	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	IV	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	V	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	V-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ (H≤216)	I	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	II	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	III	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	IV	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	V	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	V-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ (H≤270)	I	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	II	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	III	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	IV	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	V	16	370	210	226	80	523	50	②	5.31	326
	V-3R	16	370	276	292	80	683	50	④	9.11	406
300φ (H≤320)	I	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	II	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	III	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	IV	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	V	16	420	260	226	80	593	50	②	5.93	361
	V-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441
350φ (H≤370)	I	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	II	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	III	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	IV	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	V	16	470	310	226	80	664	50	②	6.55	396
	V-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476
400φ (H≤420)	I	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	II	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	III	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430
	IV	16	530	370	226	80	749	55	②	7.31	439
450φ (H≤470)	IV-3R	16	530	436	292	80	909	55	④	12.11	519
	I	8	560	470	127	45	791	45	①	2.10	456
	II	10	560	450	155	55	791	45	②	2.73	457
	III	13	570	440	183	65	806	50	②	4.88	466
	IV	16	580	420	226	80	820	55	②	7.94	474
	IV-3R	16	580	486	292	80	980	55	④	13.04	554
500φ (H≤520)	II	10	610	500	155	55	862	45	②	2.95	492
	III	13	620	490	183	65	876	50	②	5.28	501
	IV	16	630	470	226	80	890	55	②	8.56	509
	IV-3R	16	630	536	292	80	1050	55	④	13.98	589
550φ (H≤570)	II	10	660	550	155	55	933	45	②	3.17	528
	III	13	670	540	183	65	947	50	②	5.68	536
	IV	16	680	520	226	80	961	55	②	9.18	545
	IV-3R	16	680	586	292	80	1121	55	④	14.92	625
600φ (H≤630)	II	10	720	610	155	55	1018	45	②	3.44	570
	III	13	730	600	183	65	1032	50	②	6.16	579
	IV	16	750	590	226	80	1060	60	②	10.07	594
	IV-3R	16	750	656	292	80	1220	60	④	16.24	674
650φ (H≤680)	II	10	770	660	155	55	1088	45	②	3.67	605
	III	13	780	650	183	65	1103	50	②	6.55	614
	IV	16	800	640	226	80	1131	60	②	10.69	630
	IV-3R	16	800	706	292	80	1291	60	④	17.19	710
700φ (H≤730)	II	10	820	710	155	55	1159	45	②	3.89	641
	III	13	830	700	183	65	1173	50	②	6.95	649
	IV	16	850	690	226	80	1202	60	②	11.32	665
	IV-3R	16	850	756	292	80	1362	60	④	18.11	745
750φ (H≤750)	II	10	870	760	155	55	1230	45	②	4.11	676
	III	13	880	750	183	65	1244	50	②	7.35	685
	IV	16	900	740	226	80	1272	60	②	11.94	700
	IV-3R	16	900	806	292	80	1432	60	④	19.05	780

イヤレンNS計算結果一覧表															
工事名：（仮称）樺智町総合体育館新築工事															
開口径	115φ	141φ	168φ	181φ	200φ	218φ	240φ	270φ	320φ	370φ	420φ	470φ	520φ	570φ	800φ
使用径	100φ	128φ	150φ	175φ	200φ	220φ	250φ	300φ	350φ	400φ	450φ	500φ	550φ		
【梁符号】															
（孔距S1P）	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径	縦・本・径・径
Realis（P76/KS）	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径	型・本・径・径
【F61】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
1/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F61B】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
2/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F62】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
3/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F63】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
4/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F65】	2-4-D13	2-4-D13	3-4-D13	3-4-D13		3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13
5/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F65A】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
6/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F611】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
7/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F611A】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
8/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F611B】	1-3-D13	1-3-D13	2-3-D13	2-3-D13		2-3-D13	2-3-D13	3-3-D13	3-3-D13	3-3-D13	3-3-D13	3-3-D13	3-3-D13	3-3-D13	3-3-D13
9/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F612】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
10/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F613】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
11/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F614】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
12/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F615】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
13/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F616】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
14/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F616A】	2-5-D13	2-5-D13	3-5-D13	3-5-D13		3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13
15/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F616B】	1-4-D13	1-4-D13	2-4-D13	2-4-D13		2-4-D13	2-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13	3-4-D13
16/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F616C】	2-5-D13	2-5-D13	3-5-D13	3-5-D13		3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13	3-5-D13
17/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F621】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
18/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F621A】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
19/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F622】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
20/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F623】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
21/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F624】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
22/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F631】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
23/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F632】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
24/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F633】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
25/72	V-3R-3	V-3R-3	V-3R-3	V-3R-3		V-3R-4	V-3R-4	V-3R-5	V-3R-5	V-3R-5	V-3R-5	V-3R-5	V-3R-5	V-3R-5	V-3R-5
【F634】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
26/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F650】	1-2-D10	1-2-D10	2-2-D10												
27/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2												
【F680】	1-2-D10	1-2-D10	2-2-D10	2-2-D10	2-2-D10										
28/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2										
【F680C】	1-2-D10	1-2-D10	2-2-D10	2-2-D10	2-2-D10										
29/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2										
【F680A】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13									
30/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2									
【F680A】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13									
31/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2									
【F6120】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13						
32/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2						
【F6130】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13					
33/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2					
【F6180】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13
34/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F6180A】	1-2-D10	1-2-D10	2-2-D10	2-2-D10		2-2-D10	2-2-D10	3-2-D10	3-2-D10	3-2-D10	3-2-D10	3-2-D10	3-2-D10	3-2-D10	3-2-D10
35/72	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2		1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2	1-2R-2
【F6180B】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13					
36/72	V-3R-3	V-3R-3	V-3R-3	V-3R-3		V-3R-3	V-3R-4	V-3R-4	V-3R-5	V-3R-5					
【F6180】	1-2-D13	1-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		2-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13					

【251】	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13
38/72	III-2R-2 III-2R-2 III-2R-2 IV-2R-2	IV-2R-2
【251B】		
39/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 IV-2R-2
【252】		
40/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2
【253】		
41/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2
【255】		
42/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 II-2R-2 II-2R-2
【2511】		
43/72	2-4-D13 2-4-D13 3-4-D13 3-4-D13	3-4-D13 III-2R-2 III-2R-2 IV-2R-2 IV-2R-2
【2511A】		
44/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【2511B】		
45/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【2512】		
46/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 II-2R-2
【2513】		
47/72	1-3-D13 1-3-D13 2-3-D13 2-3-D13	2-3-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 II-2R-2
【2514】		
48/72	1-3-D13 1-3-D13 2-3-D13 2-3-D13	2-3-D13 IV-2R-2 IV-2R-2 IV-2R-2 IV-2R-2
【2515】		
49/72	1-3-D13 1-3-D13 2-3-D13 2-3-D13	2-3-D13 IV-2R-2 IV-2R-2 IV-2R-2 IV-2R-2
【2516】		
50/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 II-2R-2
【R1G1】		
51/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【R1G2】		
52/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【R1G3】		
53/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 II-2R-2 II-2R-2 II-2R-2 III-2R-2
【R1G5】		
54/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 2-2-D13 III-2R-2 III-2R-2 III-2R-2 III-2R-2
【R1G11】		
55/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【R1G11A】		
56/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 III-2R-2 III-2R-2 III-2R-2 IV-2R-2
【R1G11B】		
57/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【R1G12】		
58/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【R1G12A】		
59/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【R1G16】		
60/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2 I-2R-2
【B50】		
61/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10	
【B60】		
62/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10 2-2-D10	2-2-D10 V-2R-2 V-2R-2 V-2R-2 V-2R-2
【B60A】		
63/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10 2-2-D10	2-2-D10 II-2R-2 II-2R-2 II-2R-2 II-2R-2
【B60B】		
64/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10 2-2-D10	2-2-D10 III-2R-2 III-2R-2 III-2R-2 III-2R-2
【B60C】		
65/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10 2-2-D10	2-2-D10 II-2R-2 II-2R-2 II-2R-2 II-2R-2
【B60D】		
66/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10 2-2-D10	2-2-D10 IV-2R-2 IV-2R-2 IV-2R-2 IV-2R-2
【B70】		
67/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10 2-2-D10	2-2-D10 III-2R-2 III-2R-2 III-2R-2 III-2R-2
【B70A】		
68/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10 2-2-D10	3-2-D10 IV-2R-2 IV-2R-2 V-2R-2 V-2R-2
【CG80】		
69/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 V-2R-2 V-2R-3 V-2R-3 V-2R-3
【CG80A】		
70/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 3-2-D13	
【CG80B】		
71/72	1-2-D13 1-2-D13 2-2-D13 2-2-D13	2-2-D13 V-2R-2 V-2R-3 V-2R-3 V-2R-3
【CB90】		
72/72	1-2-D10 1-2-D10 2-2-D10 2-2-D10	

 石本建築事務所 ISHIMOTO architectural & engineering firm, inc.	履歴	完成図作成 (受注者名)	完成図承諾	法適合確認 構造設計一級建築士 山田 和生 証文番号 第11279号	法適合確認 設備設計一級建築士 証文番号	製作日	代表設計者	設計者	業務名称	業務契約コード	図面番号	管理建築士
	日付	日付	日付	本図(仕様書)に記載された事項は、構造関係規定に適合することを確認した。	本図(仕様書)に記載された事項は、設備関係規定に適合することを確認した。	2025.03.31	一級建築士 大臣登録第280701号 西 重隆	一級建築士 大臣登録第370830号 山田 和生	(仮称) 福岡町総合体育館新築工事	108557-02		
	監理技術者	監理者	担当者	担当者	構造設計一級建築士 山田 和生 証文番号 第11279号	設備設計一級建築士 証文番号	ファイル名	日付	日付	担当者	図面名称	縮尺
							2025.03.31		RC梁貫通孔補強材 補強リスト	A1: — A3: —		



躯体内埋め込みボックス類及び配管  
に関する施工規準

1. 総則

原則として、柱と梁の材軸方向へのボックス類や配管の埋め込みは行わない。  
本図は、止むを得ず鉄筋（鉄骨）コンクリート構造体に設置するボックス類と埋め込む配管に関する  
施工規準を示す。  
コンクリート躯体に埋設する合成樹脂製可とう電線管（PF管）は、呼称サイズ22以下、外径30.5φ以下  
とする。但し、避雷導体保護管は呼称サイズ28以下とする。  
尚、本規定を満たすことが困難な場合は、監理者の指示を受けること。

2. 柱にボックス類や配管を埋め込む場合

（1）材軸方向（鉛直方向）の配管

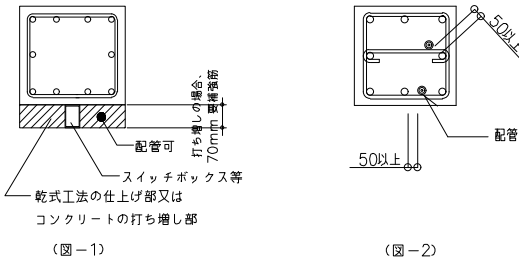
原則として、ボックス類や配管を埋め込んではいならない。  
やむを得ず埋め込む場合は、監理者と協議の上、下記方法とする。

1）乾式工法の仕上げ部又はコンクリートの打ち増し部に埋設する。（図－1）

2）柱内に埋設する。

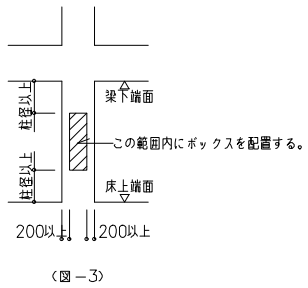
2－1）柱内に埋設する場合の配管要領（図－2）

- ・配管は、柱主筋及び鉄骨より50mm以上離す。
- ・1本の柱に埋設する配管は、任意の水平断面中において原則2本以下とし、横走り配管はしない。
- ・柱主筋と配管のあきが取れない場合は、配管を柱主筋の内側に入れ、サブフープ筋または、  
受け材に結束する。



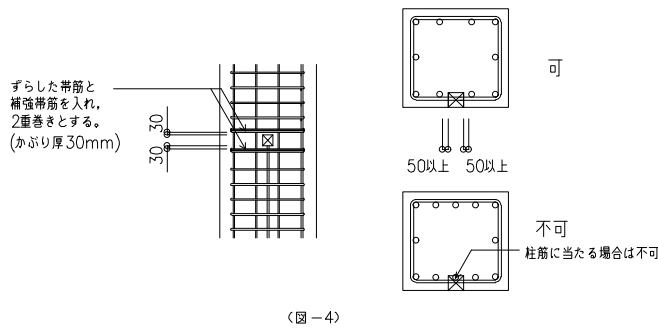
2－2）ボックス類取り付け位置（図－3）

- ・ボックス類の位置は柱面より200mm以上離す。又、梁下端面より柱径以上、  
・床上端面より柱径以上離れた位置とする。



2－3）ボックス類取り付け部の補強要領（図－4）

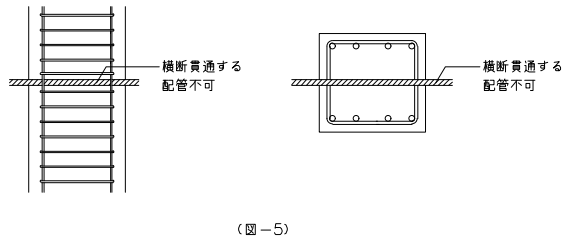
- ・帯筋をずらし補強帯筋を入れる。ボックス類のかぶり寸法は、30mmとする。  
但し、柱主筋がボックス類の位置にある場合には本方法は適用出来ない。



注 記

- ・ボックス等にかかるフープ筋を切断したり、折り曲げてはならない。
- ・補強帯筋は帯筋と同径・同材質とする。
- ・1本の柱に埋設するボックス類は柱1本につき4ヶ所以下、1面では2ヶ所以下とする。

（2）材軸と直交方向の配管  
柱を横断貫通する配管等は設けない。（図－5）



3. 梁に配管を埋め込む場合

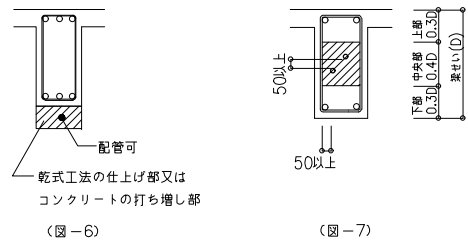
（1）材軸方向の配管

原則として、ボックス類や配管等を埋め込んではいならない。  
やむを得ず埋め込む場合は、監理者と協議の上、下記の方法とする。

1）乾式工法の仕上げ部又はコンクリートの増し打ち部に埋設する。（図－6）

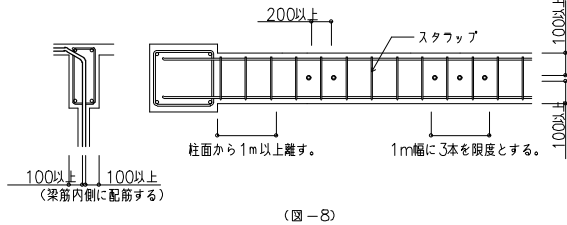
2）梁内に埋設する。（図－7）

- ・梁内の軸方向の埋設は梁せいの中央部（0.4D以内）とし、本数は2本以下とする。
- ・配管相互のあきは50mm以上確保すること。



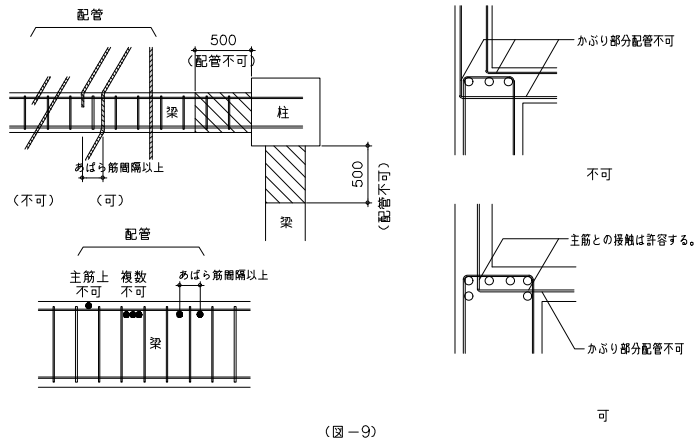
（2）梁の鉛直方向（縦方向）の配管（図－8）

- ・柱面より1m以内では貫通を行わない。
- ・配管は、梁面より100mm以上内側で行う。
- ・配管ピッチは200mm以上、かつ、1m幅に3本を限度とする。



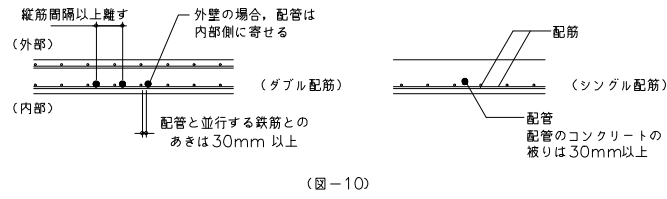
（3）梁の水平方向（横方向）の配管（図－9）

- ・柱面より 500mm 以内の範囲に配管は設けない。
- ・配管は、材軸（梁主筋）とはほぼ直角に貫通させる。（横走りの禁止）  
また、材軸方向の配管相互の中心間隔は、あばら筋間隔以上とし  
同一箇所での材軸方向への複数本配管は行わない。
- ・配管は梁主筋の内側に通し、主筋とのあきを確保する。また、梁のかぶり  
部分（梁側面と上下面）には配管しない。

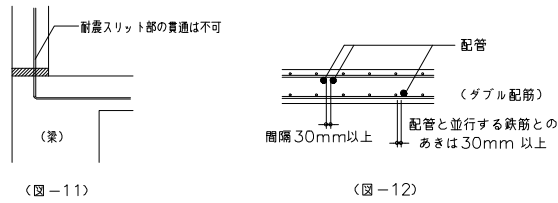


4. 壁に配管を埋め込む場合

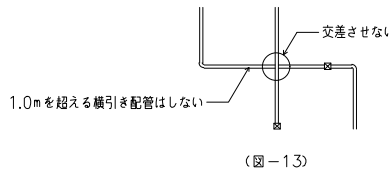
- （1）外壁及び耐震壁には、原則として配管は設けない。  
やむを得ず配管する場合、配管ピッチは 500mm以上とする。  
また、地下外壁の配管は、接地用配管及び防犯用配管を除き、原則として設けない。（図－10）



- （2）配管が集中する分電盤廻り等で壁に埋設が困難な場合は監理者と協議する。
- （3）耐震スリット部を貫通する配管は行わない。（図－11）
- （4）一般壁（外壁及び耐震壁以外）の配管は1m幅に5本を限度とし、配管相互のあき、  
配管と並行する鉄筋とのあき、及び、配管のコンクリートの被りは30mm以上  
とする。（図－12）



- （5）ダブル配筋壁の場合はアウトレットボックス廻りを除き、内外の鉄筋間に配管する。
- （6）短区間（1.0m 以内）を除き、横走り配管をしてはならない。  
又、交差配管は行わない。（図－13）

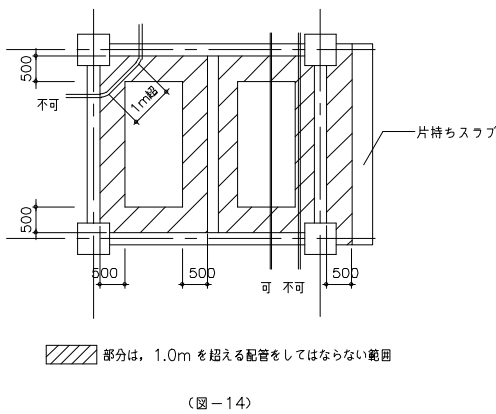


- （7）蛇行配管は行わない。
- （8）縦筋に添わせない。

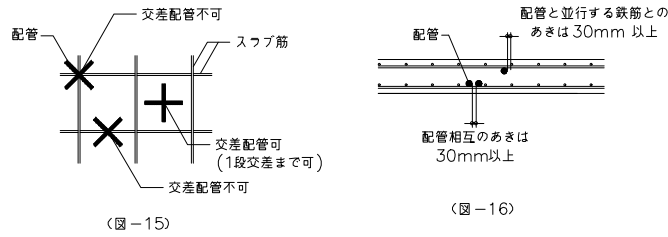
5. スラブに配管を埋め込む場合

- （1）屋根スラブには原則として配管は行わない。やむを得ず配管を行う場合は、監理者と協議の上、  
ファイバーメッシュ等の補強筋を配置すること。

- （2）梁面（系梁を除く）より 500mm 以内の範囲に、1.0m を超える配管は設けない。（図－14）  
但し、短辺2.0m以下のスラブには適用しない。

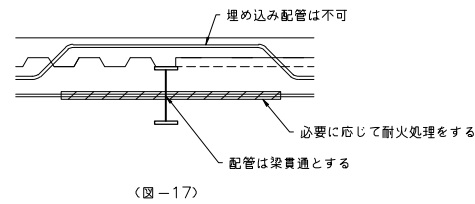


- （3）配管が2本以上平行する場合は、1m幅に5本を限度とする。
- （4）配管どうしの交差は、鉄筋交差部では行わない。又、1段交差までとする。（図－15）
- （5）配管相互のあき、配管と平行する鉄筋部のあきは 30mm 以上とする。（図－16）

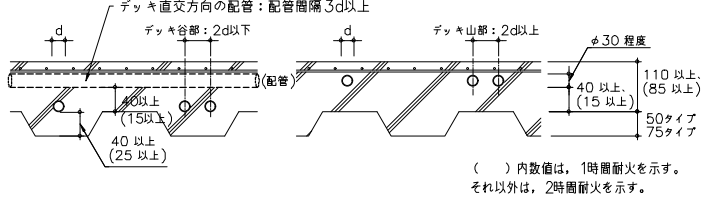


- （6）蛇行配管は行わない。
- （7）EPS等、配管が集中するスラブは躯体レベルを下げて床打ち増し等により対応すること。

- （8）合成床版に関する規定（合成スラブ通則 耐火指定の仕様を用いる場合）  
合成床版には原則として埋設配管（梁渡り配管含む）は設けない。（図－17）  
やむを得ず配管する場合は、（社）日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工規準  
－2004」付録－6 合成スラブ工業会指針に準拠すること。  
尚、耐火被覆を施さない場合は、デッキ山上からのコンクリートの厚みは2時間耐火で  
110mm 以上、1時間耐火で 85mm 以上必要となるので十分注意すること。（図－18）





\* 耐火被覆を施さない場合の施工例（スラブ厚に注意）（図－18）





- \* アウトレットボックス等を埋設する場合はボックス面に対して所定の被り厚さを確保し、  
ボックスの外形＋100mmの範囲に耐火被覆を施すこと。

（図－18）



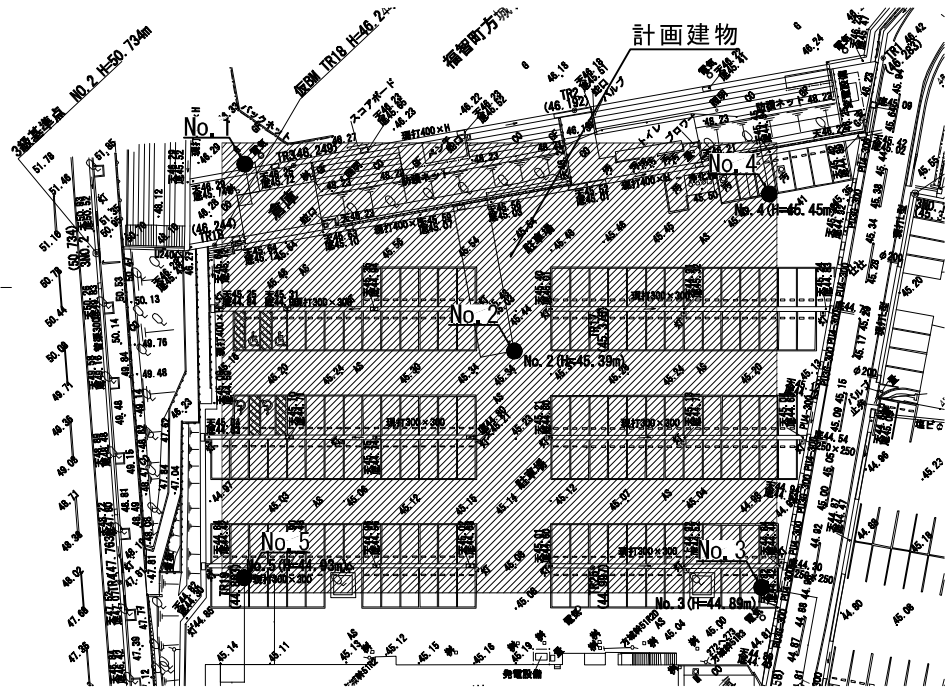
ボーリング名		No.1		調査位置		福岡県田川郡福智町方城グラウンド敷地内駐車場					北緯		° ' "												
発注機関				主任技術者				調査期間		令和6年7月19日～令和6年7月22日					東経		° ' "								
調査業者名				現場代理人				コア鑑定者				ボーリング責任者													
孔口標高		H 46.28m		角 上 下				方 向		270 北 90 東 180 西		地盤勾配 0 鉛直 90 水平				使用機種		試験機		東邦D-0		ハンマー 落下用具		半自動モンケン	
総掘進長		15.00m		度										エンジン		ヤンマー-NFD-10		ポンプ		東邦BG-3					

V 孔口	V 設計 GL	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	V 杭先端	V 杭先端	1180	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
------	---------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	-------	-------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----

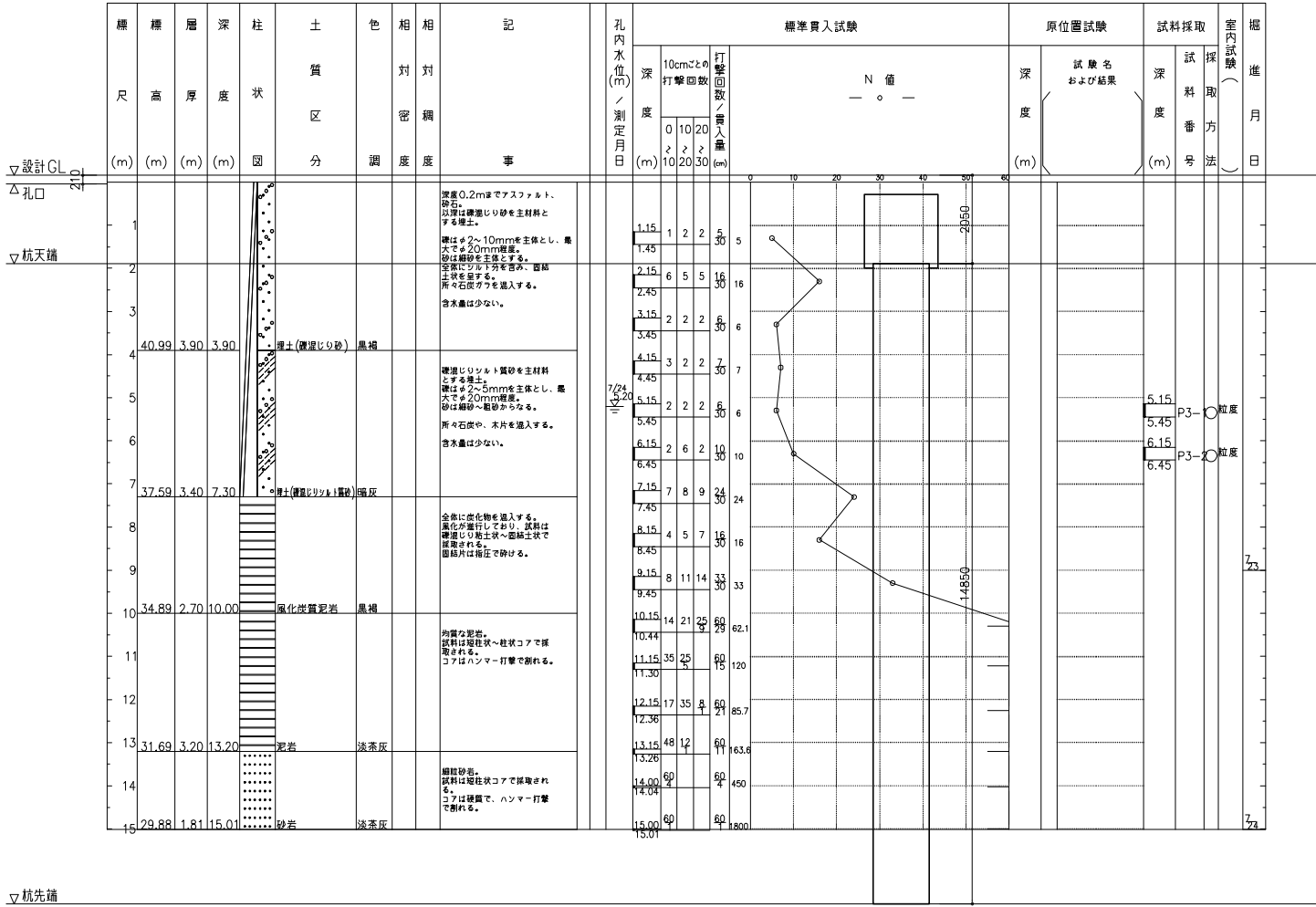
ボーリング名	No.2		調査位置		福岡県田川郡福智町方嶺クラウド敷地内駐車場						北緯		° ' "	
発注機関					調査期間		令和6年7月22日～令和6年7月23日				東経		° ' "	
調査業者名					主任技術者		現場代理人		コパ鑑定者		ボーリング責任者			
孔口標高	H	45.39m	角		方		使用機械	試錐機		YBM-05	ハンマー落下用具	半自動モンケン		
総掘進長	15.00m	度					エンジン	ヤンマーTF70VE		ポンプ	東邦BG-3			

標高	標高	層厚	深	柱状	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験( )	掘進月日	
											深	10cmごとの打撃回数 / 貫入量			N 値	深	試験名および結果	深			試料番号
												0	10	20							
(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	
▽ 孔口	△ 設計 GL																				
1											1.15	15	15	15	45						
2	42.89	2.50	2.50		粘土(硬質じり粘土質砂)						1.45	8	7	23	30						
3											2.15	5	5	6	16						
4											3.15	2	2	3	7						
5											4.15	2	2	3	7						
6	38.79	4.10	6.60		粘土(硬質じり粘土)						5.15	2	2	2	6						
7											6.15	3	3	7	13						
8	36.49	2.30	8.90		粘土(硬質じり粘土)						7.15	1	2	3	6						
9											8.15	2	2	3	7						
10	35.39	1.10	10.00		風化泥岩						9.15	3	6	7	16						
11											10.15	17	19	24	60						
12					暗灰						11.15	23	37	60	105.9					7/22	
13											12.10	60	8	60	225						
14											13.00	60	8	60	450						
15	30.33	5.06	15.06		泥岩						14.00	60	8	60	360						
▽ 杭先端											15.00	60	8	60	300					7/23	

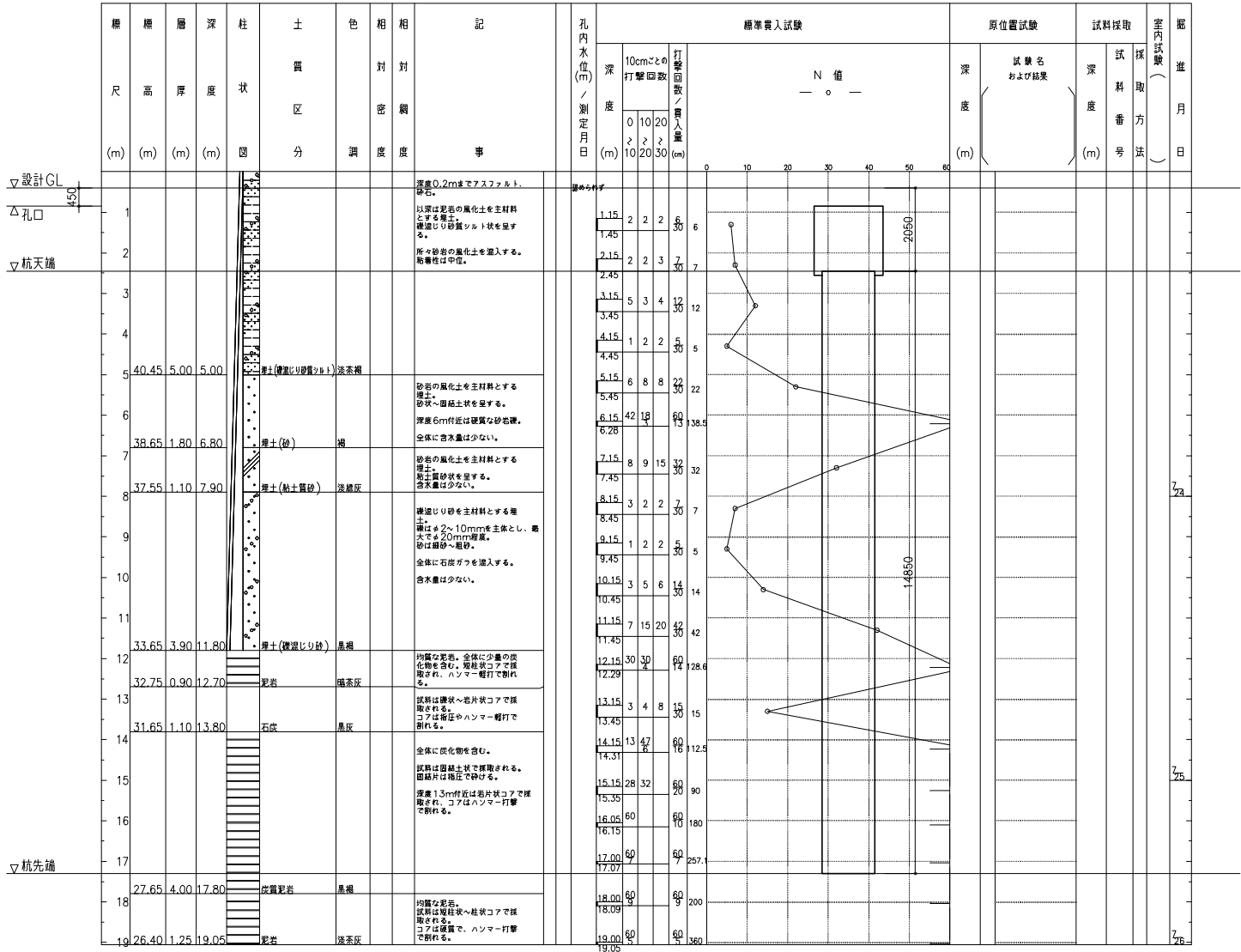
- ・設計GL=H+45.05m
- ・1FL=H+45.10m  
=設計GL+50
- ・工事施工前に追加地盤調査を行う。  
結果によっては、杭の設計変更を行う可能性がある。



ボーリング名 No.3		調査位置 福岡県田川郡福智町方城グラウンド敷地内駐車場				北緯	° ' "
発注機関					調査期間 令和6年7月23日～令和6年7月24日	東経	° ' "
調査業者名		主任技術者		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	H 44.89m	角		方	西	北	東
総掘進長	15.00m	度		向	西	北	東
		使用機種		エンジン	ヤンマーNFD-10	ポンプ	東邦BG-3



ボーリング名 No.4		調査位置 福岡県田川郡福智町方城グラウンド敷地内駐車場				北緯	° ' "
発注機関					調査期間 令和6年7月24日～令和6年7月26日	東経	° ' "
調査業者名		主任技術者		管理技術者	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	H 45.45m	角		方	西	北	東
総掘進長	19.00m	度		向	西	北	東
		使用機種		エンジン	ヤンマーTF90m	ポンプ	東邦BG-3



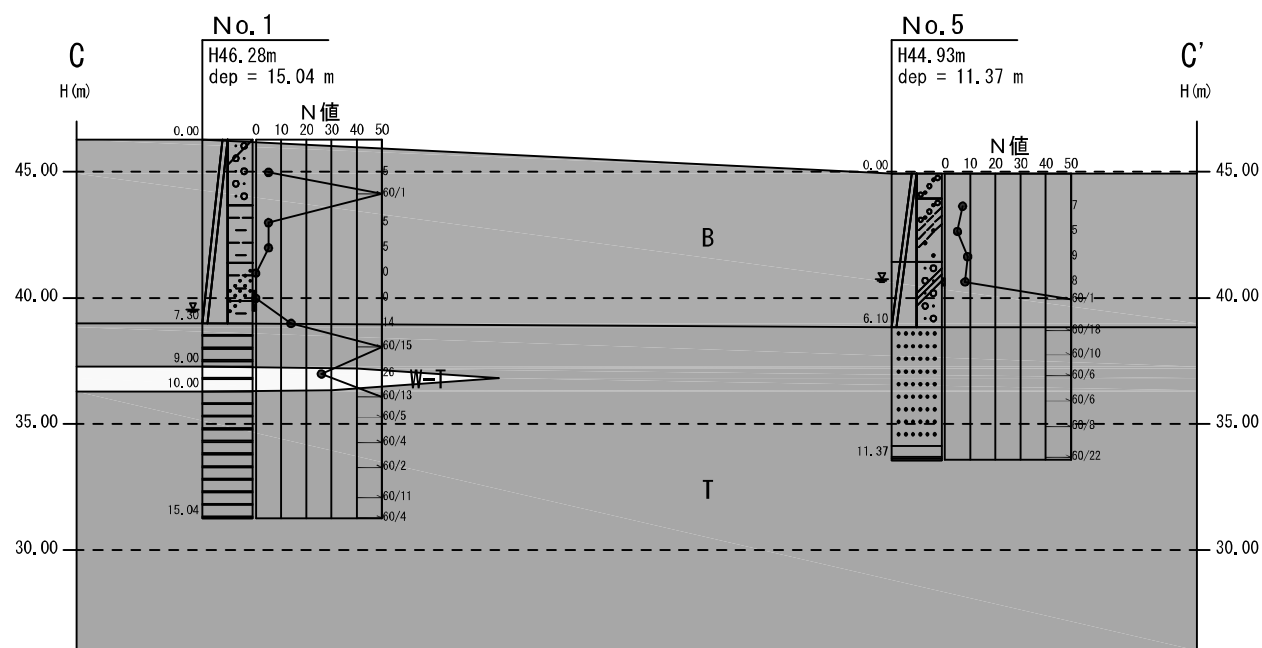
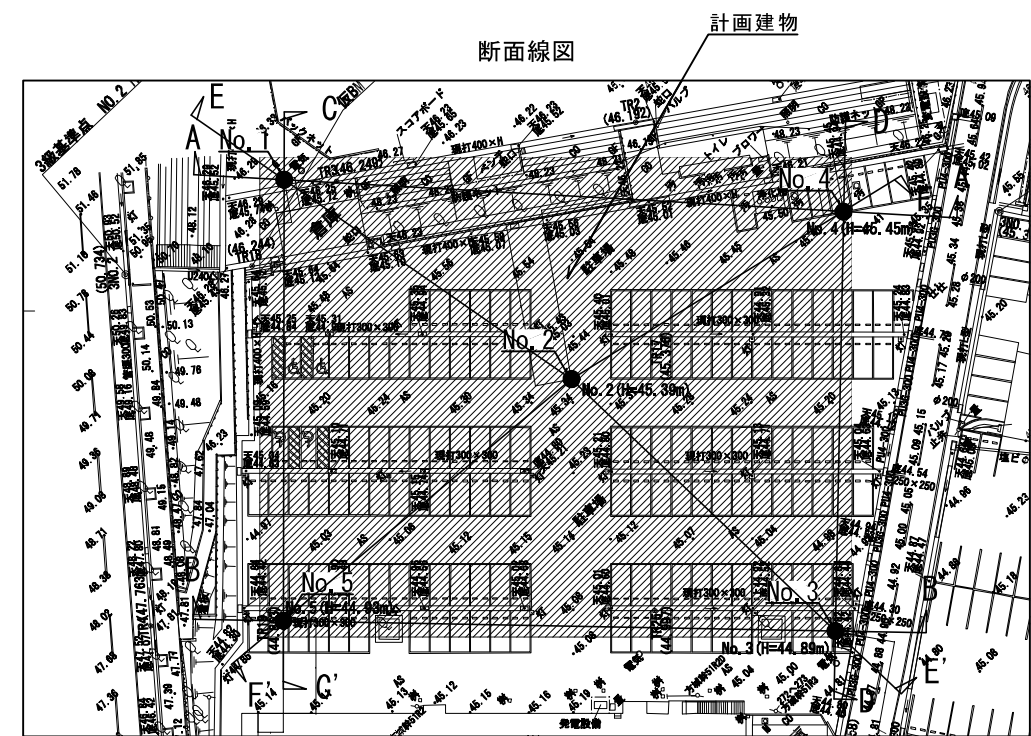
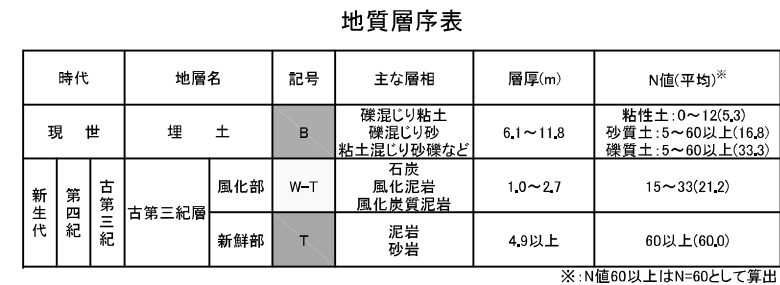
▽設計G

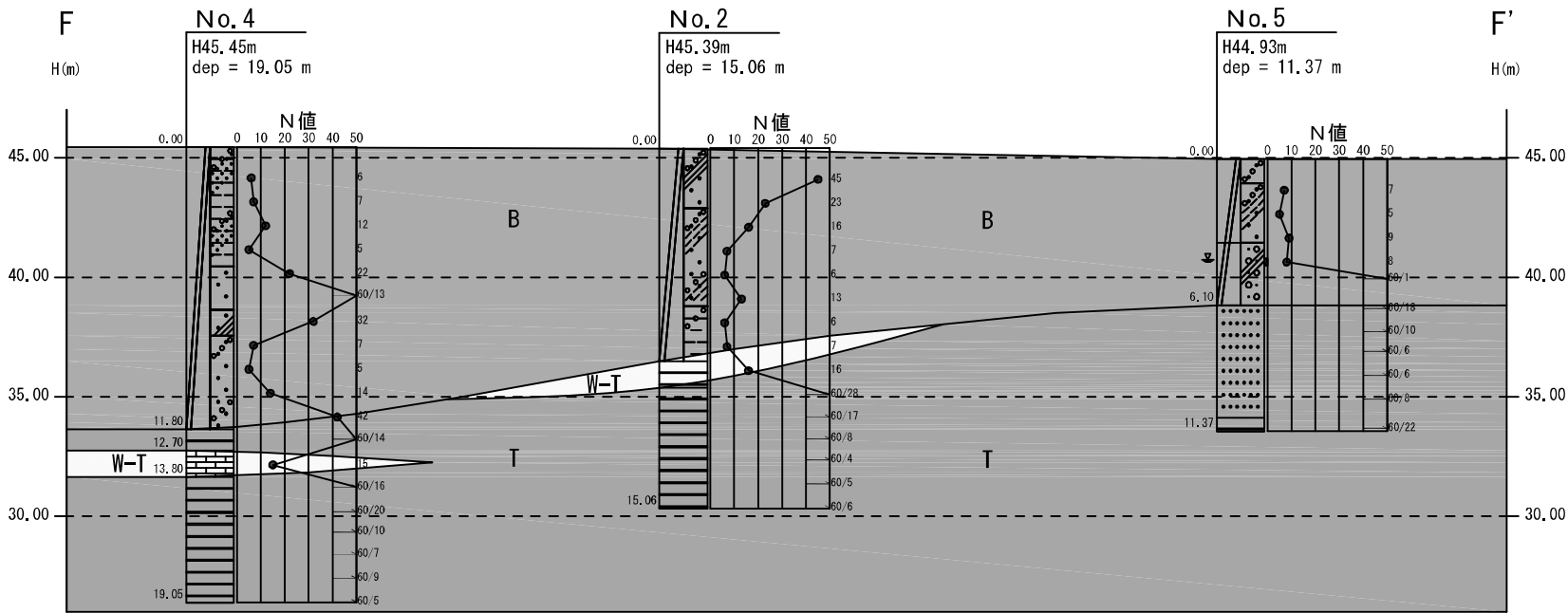
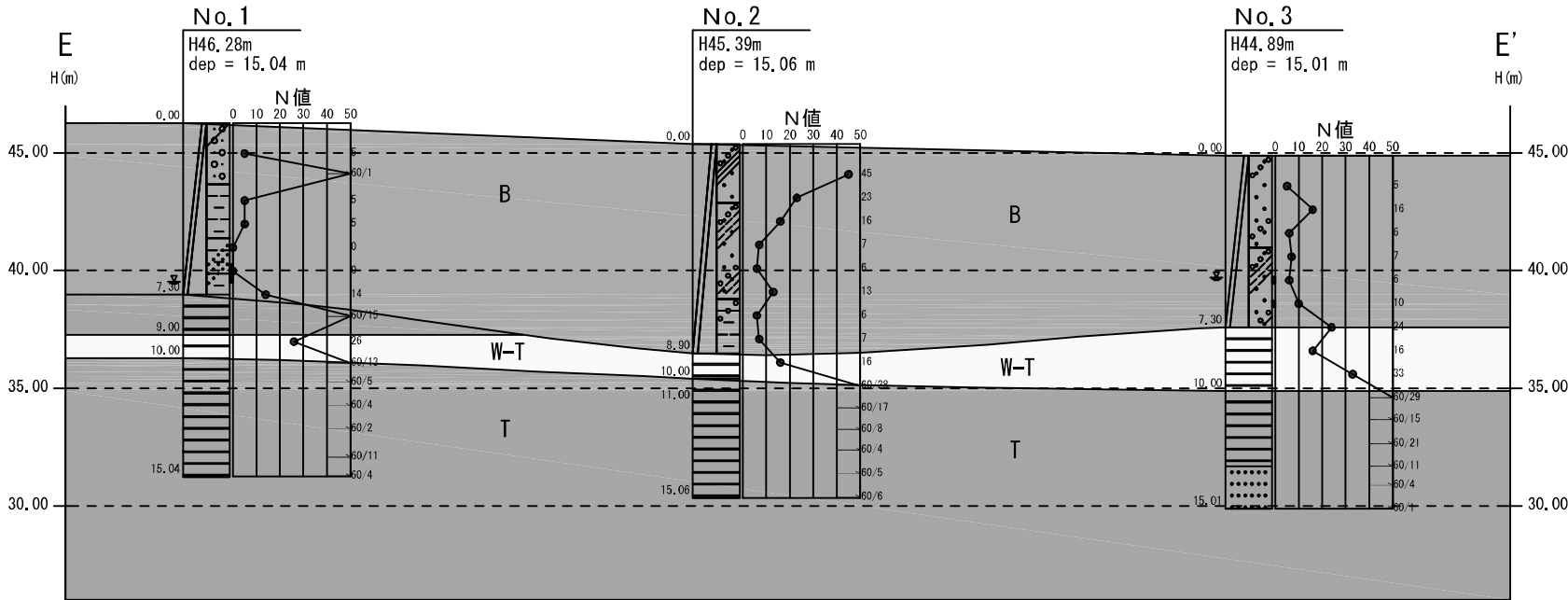
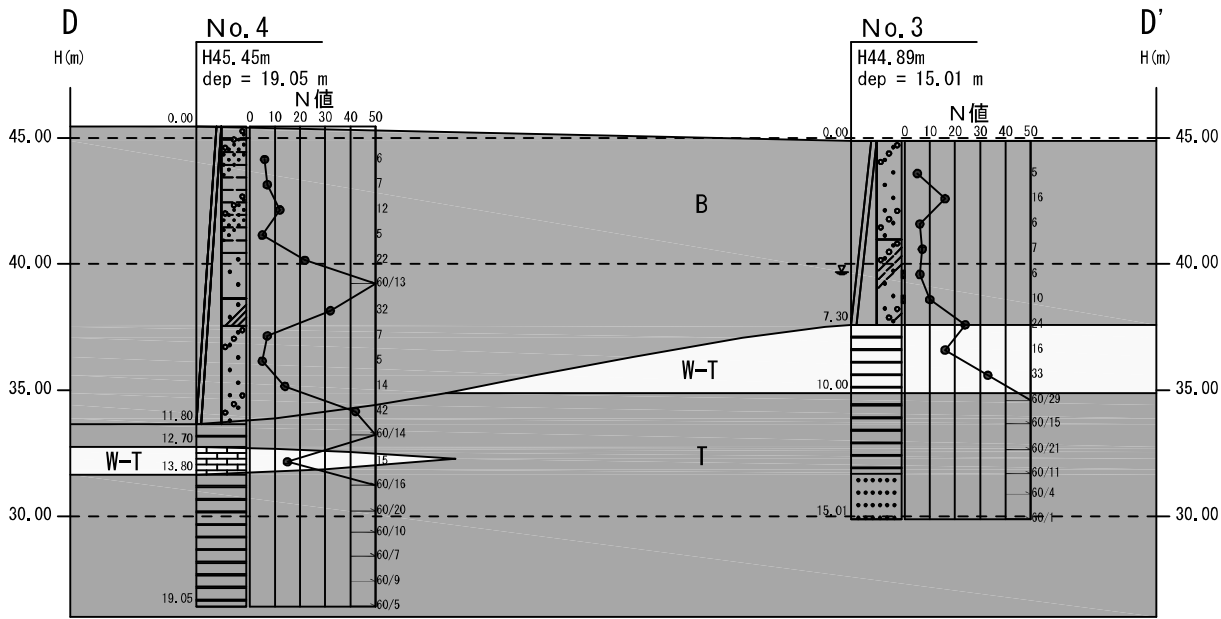
### ▽ 杭天端

### ▽杭先端

5



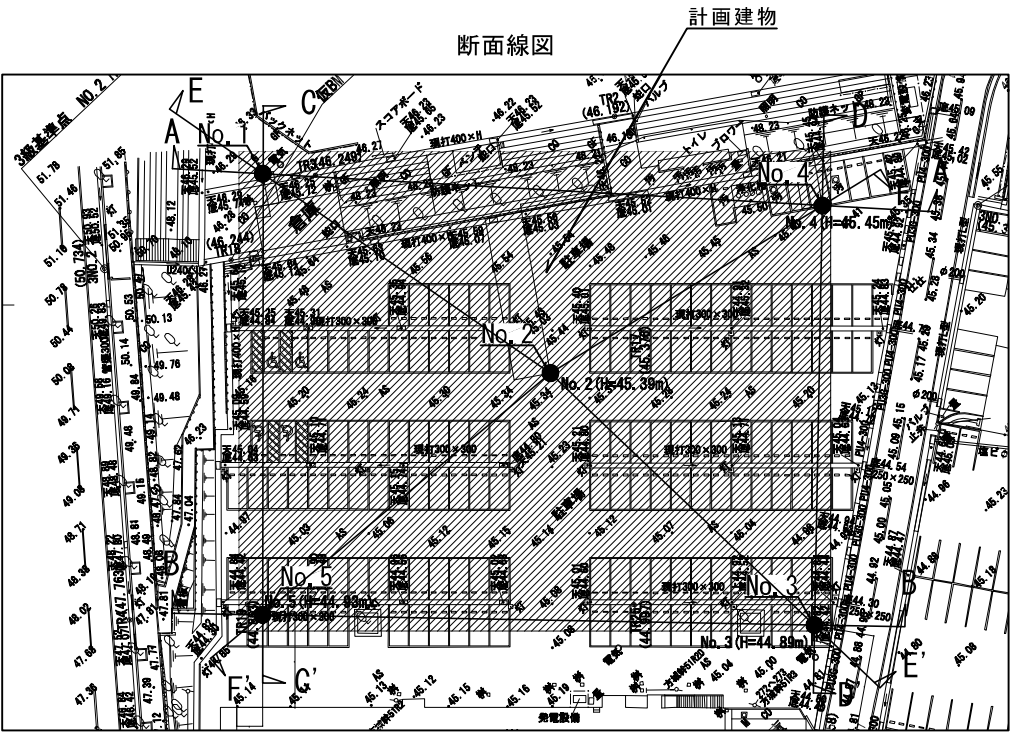


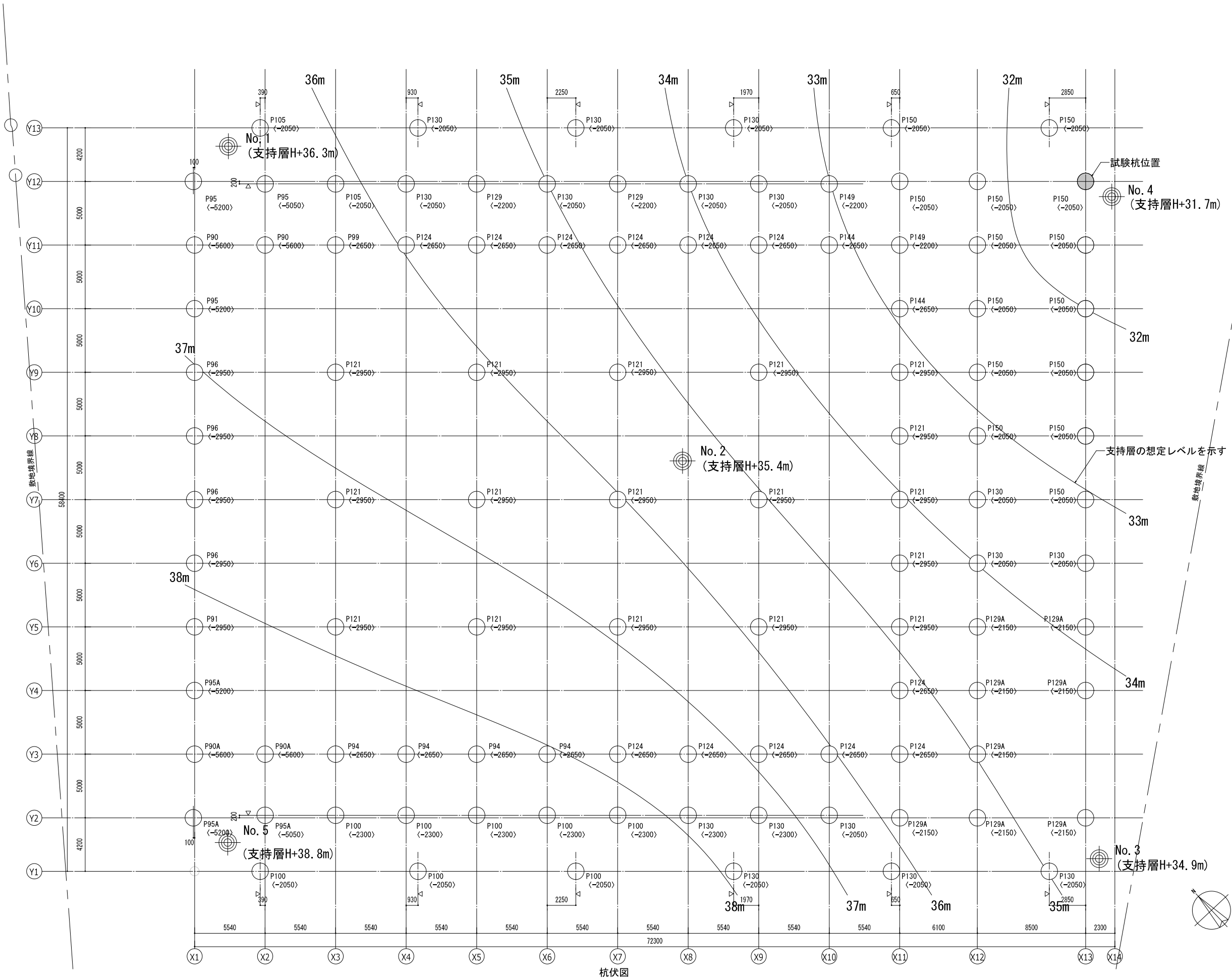


地質層序表

時代		地層名	記号	主な層相	層厚(m)	N値(平均)*
現世		埋土	B	礫混じり粘土 礫混じり砂 粘土混じり砂礫など	6.1～11.8	粘性土:0～12(5.3) 砂質土:5～60以上(16.8) 礫質土:5～60以上(33.3)
新生代	第四紀	古第三紀層	風化部	石炭 風化泥岩 風化炭質泥岩	1.0～2.7	15～33(21.2)
			新鮮部	泥岩 砂岩	4.9以上	60以上(60.0)

※:N値60以上はN=60として算出

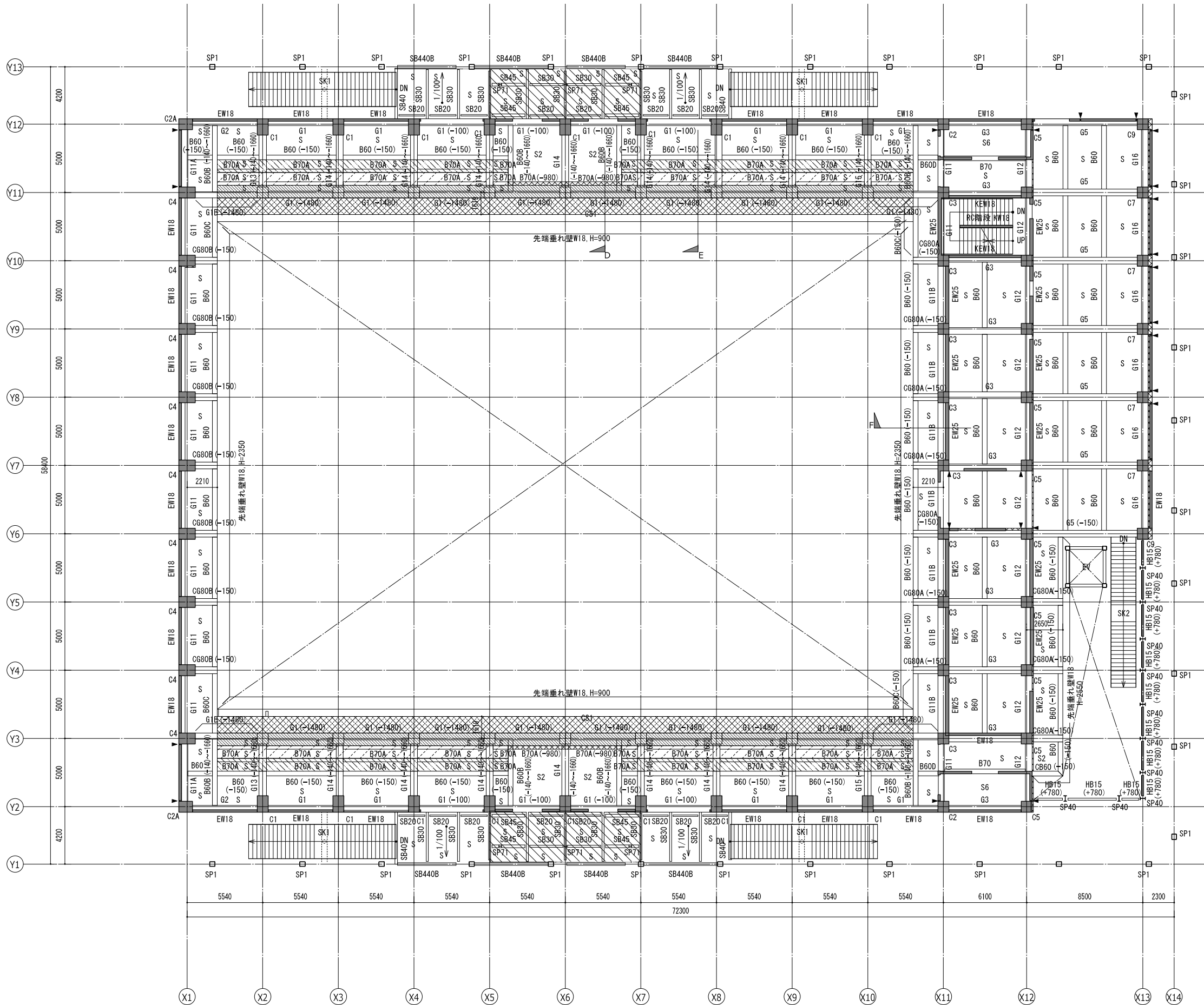




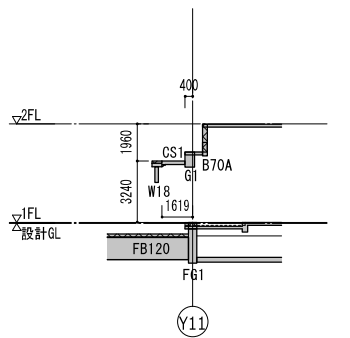
- 特記事項 特記なき限り下記とする
- ・設計GL=H+45.05m
  - ・TFL=設計GL+50 = H+45.10m
  - ・< >内の数値は設計GLからの杭天端を示す。
  - ・杭芯=通芯とする。
  - ・▽ は杭芯を示す。
  - ・● はボーリング位置を示す。
  - ・◎ は試験杭位置を示す。



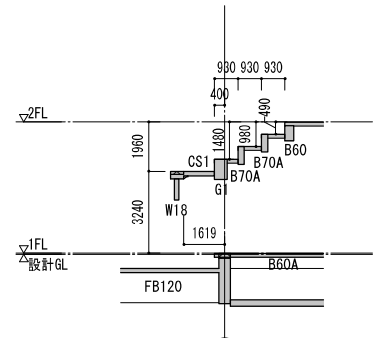




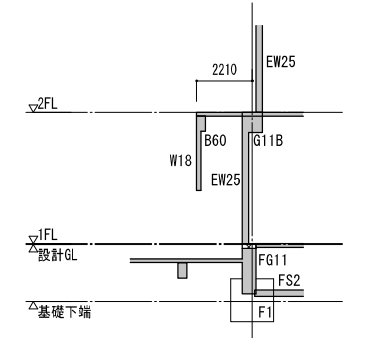
2階床伏図



D断面図 (1/100)



E断面図 (1/100)



F断面図 (1/100)

- 特記事項 特記なき限り下記とする
- ・a) RC梁天端レベルは、2FL-10とする。
  - ・b) S梁天端レベルは、2FL-350とする。
  - ・c) ( ) 内の数値は2FLからの梁天端レベルを示す。
  - ・d) RC小梁天端は取り合うスラブ天端レベルとする。
  - ・a) スラブ天端レベルは、2FL-10とする。
  - ・b) □ 内の数値は2FLからのスラブ天端レベルを示す。
  - ・c) スラブ天端レベルを以下に示す。
- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 2FL-100  | 2FL-490  | 2FL-980 |
| 2FL-1480 | 2FL-1960 |         |
- ・無記号壁は W18 を示す。
  - ・▼ は鉛直スリットを示し、水平スリットは軸組図による。
  - ・取り合う梁とスラブにレベル差がある場合は、スラブ天端まで梁天端を増打ちする。
  - ・は増打ちを示す。
  - ・無記号スラブ S は S1 を示す。
  - ・は床開口を示す。



